

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

No. \_\_\_\_\_

# 農 薬 抄 録

フルトラニル

(殺菌剤)

平成28年11月 4日

(作成会社名) 日本農薬株式会社

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

## 目 次

	頁
I. 開発の経緯	a-1
II. 物理的・化学的性状	a-3
III. 生物活性	a-14
IV. 適用及び使用上の注意	a-16
V. 残留性及び環境中予測濃度算定関係	a-30
VI. 有用動植物等に及ぼす影響	a-92
VII. 使用時安全上の注意、解毒法等	a-118
VIII. 毒性	b-1
1. 原体	b-1
(1) 急性毒性	b-15
(2) 皮膚及び眼に対する刺激性	b-30
(3) 皮膚感作性	b-36
(4) 急性神経毒性	b-39
(5) 急性遅発性神経毒性 (省略)	b-42
(6) 90日間反復経口投与毒性	b-43
(7) 21日間反復経皮投与毒性	b-55
(8) 90日間反復吸入毒性	b-58
(9) 反復経口投与神経毒性	b-59
(10) 28日間反復投与遅発性神経毒性	b-63
(11) 1年間反復経口投与毒性及び発がん性	b-66
(12) 繁殖毒性及び催奇形性	b-104
(13) 変異原性	b-127
(14) 生体機能影響	b-151
(15) その他	b-155
2. 原体混在物及び代謝物	b-181
(1) 経口毒性	b-181
(2) 変異原性	b-196

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

3.	製剤	b-218
(1)	50%水和剤	b-218
(2)	7%粒剤	b-229
(3)	21%粒剤	b-239
(4)	20%フロアブル	b-249
(5)	30%フロアブル	b-258
(6)	40%フロアブル	b-268
(7)	15%乳剤	b-278
(8)	2%粉剤	b-288
(9)	22%油剤	b-295
IX.	動植物及び土壌等における代謝分解	c-1
1.	動物代謝に関する試験	c-7
2.	植物代謝に関する試験	c-27
3.	土壌中動態に関する試験	c-43
4.	水中動態に関する試験 (省略)	c-54
5.	土壌吸着性試験	c-56
6.	生物濃縮性試験	c-58
[附]	フルトラニルの開発年表	c-69

## I. 開発の経緯

我国の稲作において、紋枯病はいもち病に次ぐ重要病害である。日本農薬㈱は、から探索合成を開始し、有機弗素化学の知見を加えて類縁化合物の検討を重ね、AE-28247 を選抜した。直ちに急性毒性、魚毒性等の安全性試験を行った結果、いずれも問題はなかったことから、委託試験名 NNF-136、種類名フルトラニル (flutolanil) として、から (社) 日本植物防疫協会を通じての委託試験を開始した。その結果、稲、麦類、ばれいしょ、きゅうり、トマト、なす及びピーマンに薬害がなく安全に使用できることがわかった。

一方、フルトラニルの安全性は にかけて急性毒性、魚毒性、亜急性毒性試験、慢性毒性試験、次世代に及ぼす影響、変異原性、一般薬理作用や一次刺激性等が研究され、安全性の高いことが確認された。また、 から、動植物及び土壌における代謝研究が開始された。作物残留については、 まで、稲、ばれいしょ、小麦、トマト及びきゅうりについて調べた。また、水田及び畑に施用したフルトラニルの土壌中の半減期を調べた。

以上、薬効・薬害及び安全性試験成績等をまとめ、 新規登録申請を行った。その後、残留農薬安全性評価委員会等による安全性評価をへて、1985年2月に粉剤(モンカット粉剤DL)及び水和剤(モンカット水和剤)が登録された。

フルトラニルのADIは、2007年12月に食品安全委員会により0.087 mg/kg/dayと決定された。フルトラニルの国際的な安全性評価としては、2002年のFAO/WHO JMPRにおいて毒性及び残留性の評価がなされ、ADIは0.09 mg/kg/dayと設定された。また、ARFDは設定不要と判定された。

フルトラニルの諸外国での登録状況(2007年6月末時点)を次頁に表示する。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

フルトラニルの海外登録状況（2007年6月末現在）

国名	適用作物
台湾	稲、トマト、ほうれんそう、ひし
韓国	稲、にんにく、たまねぎ、ねぎ、朝鮮人参、芝
インドネシア	稲
アイルランド	小麦
中国	稲
ペルー	綿花、いんげんまめ、ばれいしょ
ウルグアイ	稲、てんさい、トマト、ピーマン、なす、ばれいしょ、 にんにく
マレーシア	稲、キク、ドリアン、葉菜類、芝
タイ	稲
スペイン	ばれいしょ、カーネーション、アーティチョーク、 いんげんまめ、ピーマン、綿花、てんさい
コロンビア	稲、ばれいしょ
フランス	ばれいしょ
米国	芝、らっかせい、稲、ばれいしょ
ドミニカ共和	稲
ベルギー	ばれいしょ
オランダ	ばれいしょ、チューリップ、アイリス
コスタリカ	稲、ばれいしょ
キプロス	ばれいしょ
パナマ	稲
フィンランド	ばれいしょ
ベネズエラ	稲、トウモロコシ
スリランカ	稲
アラブ首長国連邦	ばれいしょ、野菜
メキシコ	ばれいしょ
イスラエル	ばれいしょ
ヨルダン	ばれいしょ
オーストラリア	ばれいしょ
イギリス	ばれいしょ
シリア	ばれいしょ
チリ	ばれいしょ
エジプト	ばれいしょ
サウジアラビア	ばれいしょ
ギリシャ	ばれいしょ
ニカラグア	ばれいしょ

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

## II. 物理的・化学的性状

### 1. 有効成分の名称及び化学構造

(1) 一般名 和名：フルトラニル

英名：flutolanil (ISO名)

(2) 別名 商品名：モンカット

試験名：NNF-136、AE-28247

(3) 化学名 和名： $\alpha, \alpha, \alpha$ -トリフルオロ-3'-イソプロポキシ- $\sigma$ -トルアニリド

英名： $\alpha, \alpha, \alpha$ -trifluoro-3'-isopropoxy- $\sigma$ -toluanilide (IUPAC名)

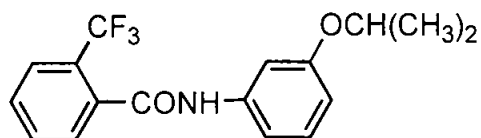
安全性評価資料の中に用いられているその他の化学名；

3'-isopropoxy-2-trifluorotoluanilide

3'-isopropoxy-2-(trifluoromethyl) benzanilide

m'-isopropoxy- $\sigma$ - $\alpha, \alpha, \alpha$ -trifluorotoluanilide

(4) 構造式



(5) 分子式：C<sub>17</sub>H<sub>16</sub>F<sub>3</sub>NO<sub>2</sub>

(6) 分子量：323.3

(7) CAS No. 66332-96-5



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

(14) スペクトル

紫外・可視吸収スペクトル、赤外吸収スペクトル、質量スペクトル、NMR スペクトルを図1～5に示す。

① 紫外・可視吸収スペクトル (OECD 101、 1998年)

$\lambda_{max}$  ; 246~248nm、 $\log \epsilon$  ; 4.052~4.070

測定波長 ; 200~750nm

フルトラニルの紫外・可視吸収スペクトル測定結果

測定溶媒	吸収波長 ( $\lambda$ nm)	分子吸光係数 ( $\log \epsilon$ )	図番号
メタノール	211	4.496	1-a
	246	4.062	
メタノール・蒸留水 (1:9)	210	4.493	1-b
	248	4.070	
メタノール・1M 塩酸(1:9)	211	4.495	1-c
	248	4.056	
メタノール・1M 水酸化ナトリウム	220	4.381	1-d
	247	4.052	

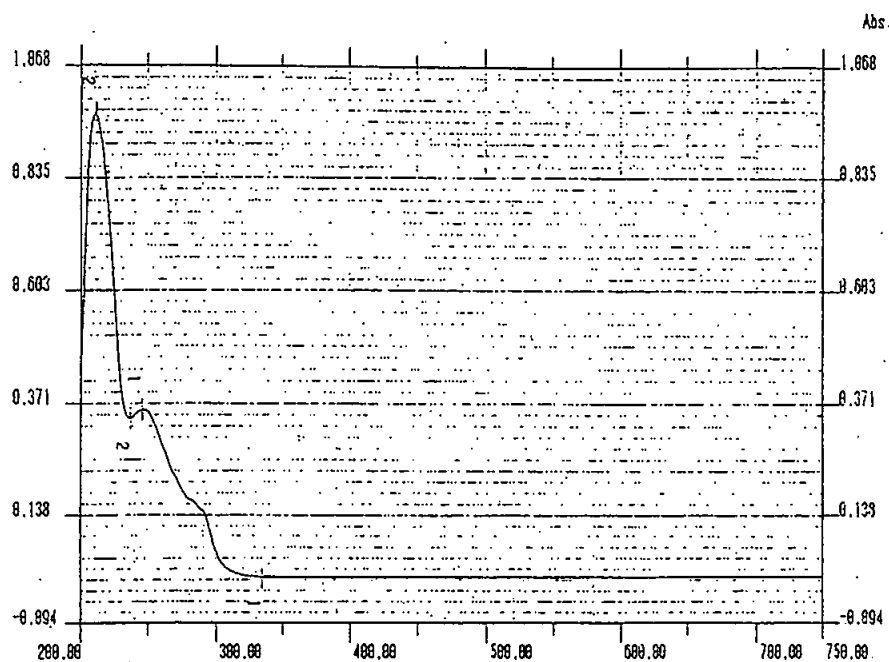


図1-a フルトラニルの紫外・可視吸収スペクトル  
[濃度 : 10ppm:メタノール]



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

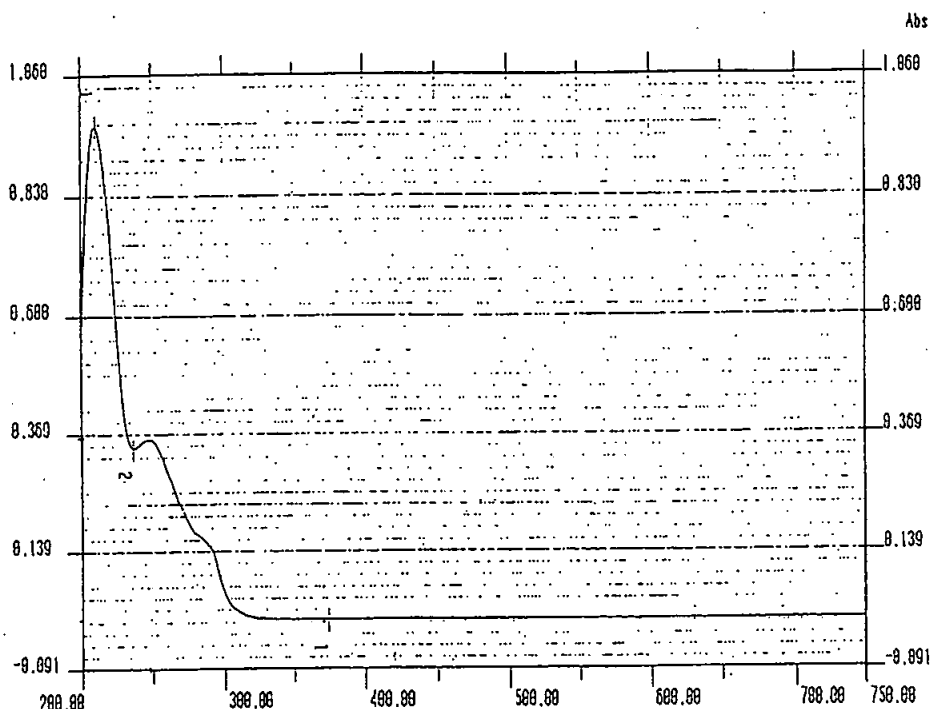


図 1-b フルトラニルの紫外・可視吸収スペクトル  
[濃度：10ppm；メタノール・蒸留水（1：9）]

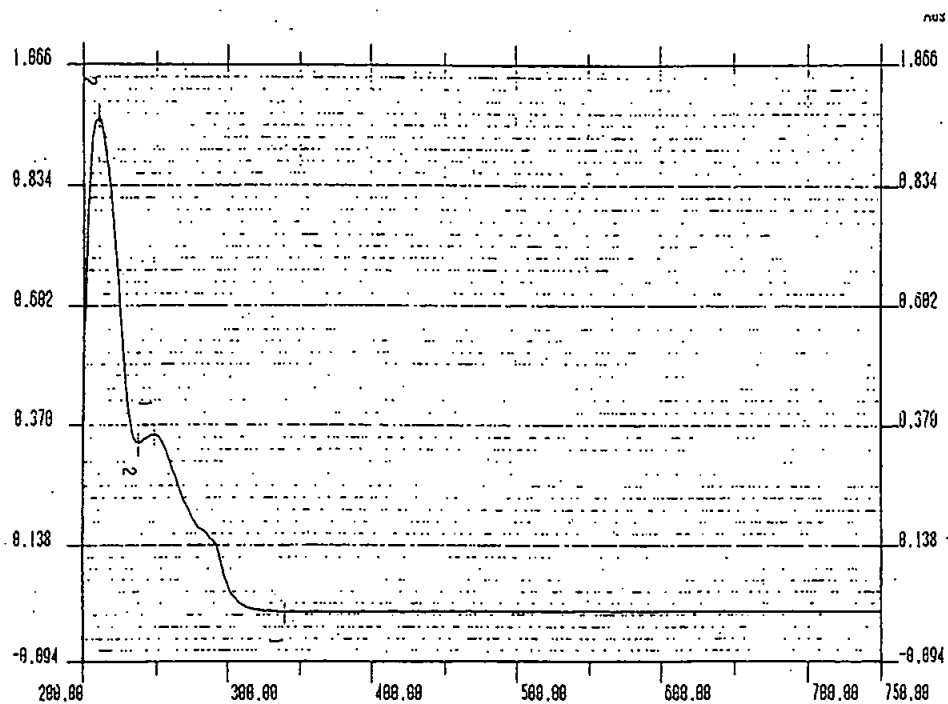


図 1-c フルトラニルの紫外・可視吸収スペクトル  
[濃度：10ppm；メタノール・1M 塩酸（1：9）]

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

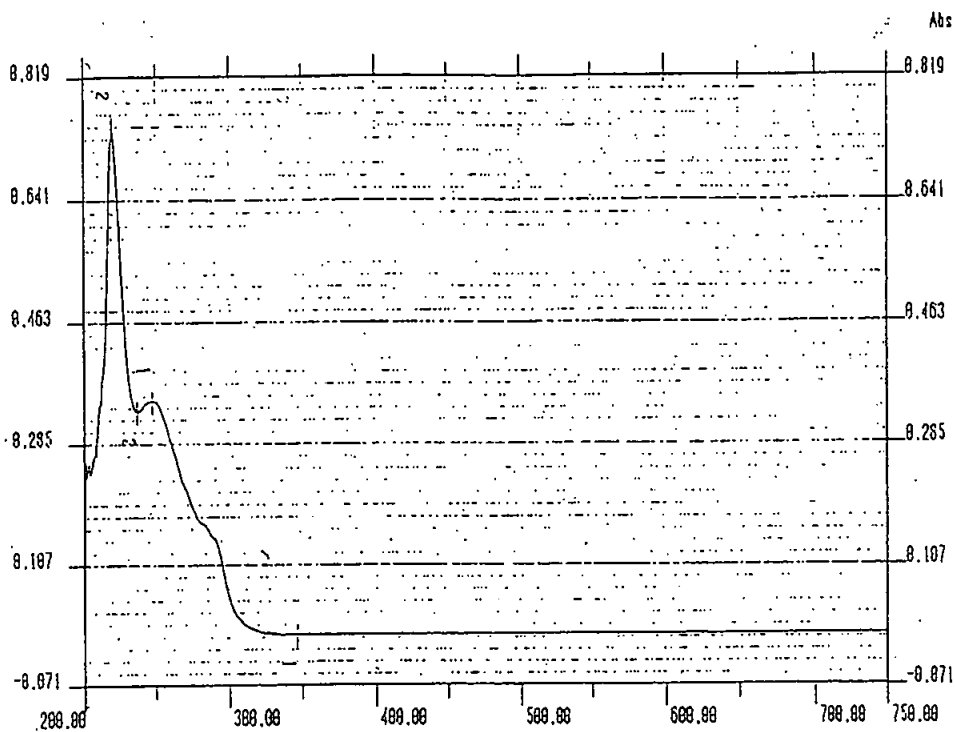


図 1-d フルトラニルの紫外・可視吸収スペクトル  
[濃度：10ppm；メタノール・1M水酸化ナトリウム（1：9）]

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

② 赤外吸収スペクトル (KBr 錠剤法、 1998 年)

$\nu_{\max}$  : 3252 (NH 伸縮),  
 1658 (C=O 伸縮)  
 3150, 3119, 3092, 2980 (C-H 伸縮) ( $\text{cm}^{-1}$ )

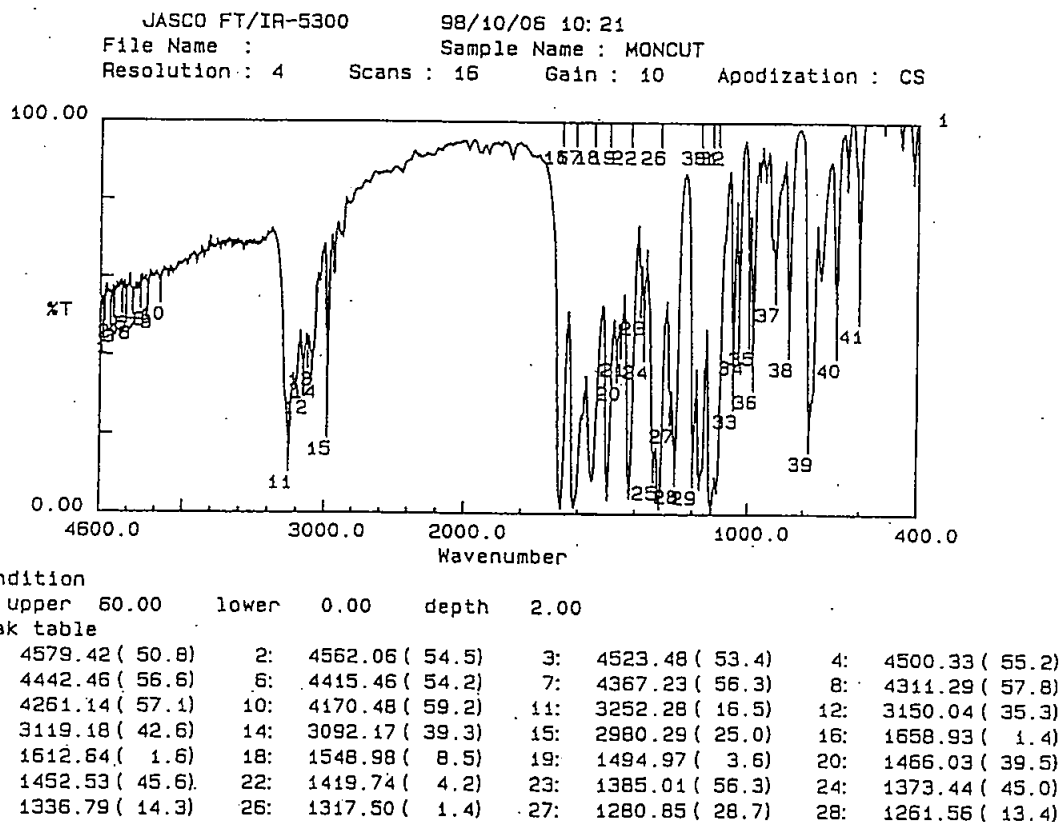


図2 フルトラニルの赤外吸収スペクトル

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

③ 質量スペクトル (EI 法、 1999 年)

323 [M]<sup>+</sup> (分子イオンピーク), 281 [M-i-C<sub>3</sub>H<sub>7</sub> + H]<sup>+</sup>,

173 [C<sub>6</sub>H<sub>4</sub>·CF<sub>3</sub>·CO]<sup>+</sup> (基準イオンピーク), 145 [C<sub>6</sub>H<sub>5</sub>·CF<sub>3</sub>]<sup>+</sup>

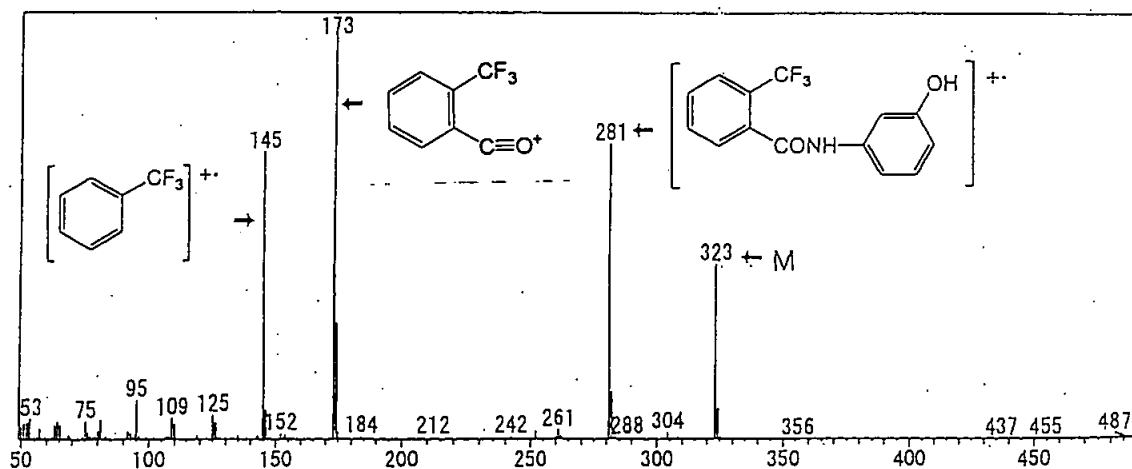


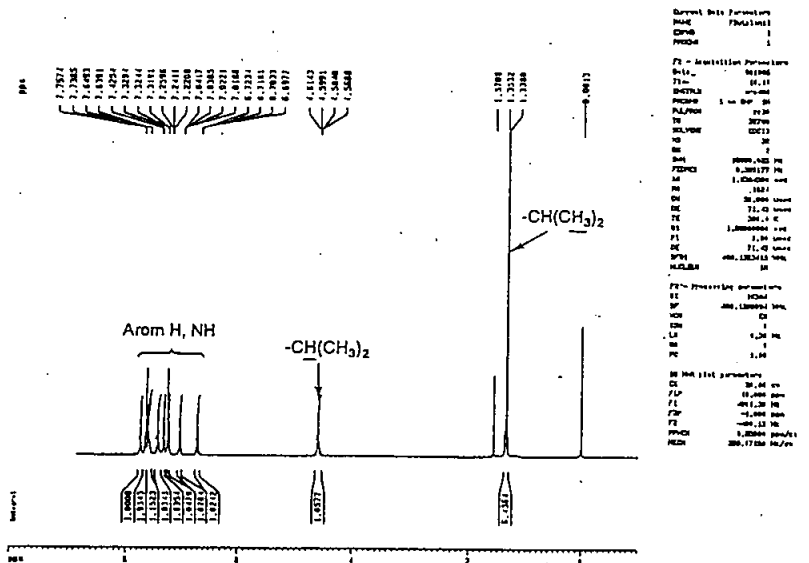
図3 フルトラニルの質量スペクトル及び主なフラグメントイオンの帰属

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

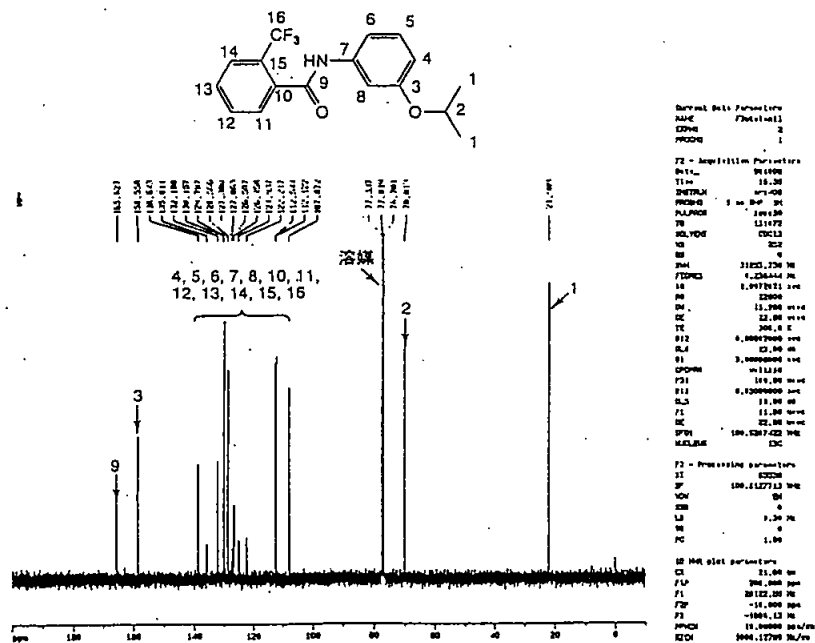
④ NMR スペクトル ( 1998 年)

$^1\text{H}$ ;	Ph-H, N-H; 6.70~7.76, <i>i</i> -Pr-methine H; 4.57~4.61 (multiplet), <i>i</i> -Pr-methyl H; 1.35 (doublet: J=4.5Hz) (ppm)	☒ 4-a
$^{13}\text{C}$ ;	Ph-C & CF <sub>3</sub> ; 107.87~138.64, C=O; 165.63, <i>i</i> -Pr-methyl C; 21.98, <i>i</i> -Pr-methine C; 70.01 (ppm)	☒ 4-b

溶媒 ; 重クロロホルム



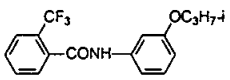
☒ 4-a フルトラニルの  $^1\text{H}$ -NMR スペクトル



☒ 4-b フルトラニルの  $^{13}\text{C}$ -NMR スペクトル

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

### 3. 原体の成分組成

区分	名称		構造式	分子式	分子量	含有量 (%)	
	一般名	化学名				規格値	通常値
有効成分	フルトラニル	α, α, α-トリフルオロ-3'-イソプロポキシ-オ-トルア-ニル		C <sub>17</sub> H <sub>16</sub> F <sub>3</sub> NO <sub>2</sub>	323.31		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

#### 4. 製剤の組成

- 1) 2.0% 粉剤 (モンカットファイン粉剤 20DL)  
フルトラニル 2.0%  
鉍物質微粉, 凝集剤等 98.0%
- 2) 15% 乳剤 (モンカット乳剤)  
フルトラニル 15.0%  
有機溶剤, 界面活性剤等 85.0%
- 3) 25% 水和剤 (モンカット水和剤)  
フルトラニル 25.0%  
鉍物質微粉, 界面活性剤等 75.0%
- 4) 50% 水和剤 (モンカット水和剤 50)  
フルトラニル 50.0%  
鉍物質微粉, 界面活性剤等 50.0%
- 5) 20% 水和剤 (モンカットフロアブル)  
フルトラニル 20.0%  
水, 界面活性剤等 80.0%
- 6) 30% 水和剤 (グラポストフロアブル)  
フルトラニル 30.0%  
水, 界面活性剤等 70.0%
- 7) 40% 水和剤 (モンカットフロアブル 40)  
フルトラニル 40.0%  
水, 界面活性剤等 60.0%
- 8) 7.0% 粒剤 (モンカット粒剤)  
フルトラニル 7.0%  
鉍物質微粉等 93.0%

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

9) 21%	粒剤 (モンカット1キロ粒剤 21)		
	フルトラニル	21.0%	
	無機塩類, 結合剤 等	79.0%	
10) 21%	粒剤 (ラクオー・モンカット)		
	フルトラニル	21.0%	
	無機塩類 等	79.0%	
11) 22%	油剤 (モンカットサーフ)		
	フルトラニル	22.0%	
	有機溶剤, 界面活性剤 等	78.0%	



### Ⅲ. 生物活性

#### 1. 活性の範囲

藻菌類 6 種、子のう菌類 15 種、担子菌類 8 種、不完全菌類 23 種、細菌類 5 種、酵母類 5 種及び放線菌類 1 種、合計 63 種の微生物に対するフルトラニルの抗菌性を寒天希釈平板法で検討した結果、担子菌類及びその近縁に属する稲紋枯病菌、稲褐色小粒菌核病菌、各種作物の白絹病菌、麦類の雪腐小粒菌核病菌及び木材腐朽菌であるカワラタケやナミダタケに強い生育阻害作用を認めた。またリゾクトニア菌の各培養型（ⅠA、ⅠB、Ⅱ、ⅢA、ⅢB、Ⅳ）に対しては、ほぼ同等の強い生育阻害力を認めた。

さび病菌に対する抗菌性は、麦の冠さび病及びなしの赤星病防除効果として確認した。

以上の様にフルトラニルは、かなり選択的な抗菌スペクトラムを示す。

（社）日本植物防疫協会に試験委託した結果、稲の紋枯病、ばれいしよの黒あざ病、麦類の雪腐小粒菌核病、なしの赤星病及びリゾクトニア菌による野菜（きゅうり、トマト、なす、ピーマン）の苗立枯病等に実用的な防除効果が確認された。

#### 2. 作用機序

フルトラニルは、稲に茎葉散布した場合、紋枯病菌に対して強い侵入阻止作用と進展阻止作用を示す。また、稲の根部や葉鞘から吸収され上部へ移行する性質があるので、水面施用で紋枯病を防除することもできる。

リゾクトニア菌の生活環の中では、菌糸生育を最も強く阻害すると共に侵入菌糸塊形成を抑制する。菌核形成や菌核発芽に対しても抑制作用がある。

さび病菌に対しては侵入阻止作用が主体だが、寄主組織内に侵入した後の薬剤散布でも病徴発現の抑制が認められ、この抑制作用は、マシン油乳剤の様に浸透補助作用を有するものを混用すると特に強化される。

#### 3. 作用特性と防除上の利点等

紋枯病の感染は、代掻き時田面水に浮上した本病菌の越冬菌核が稲の株元に漂着することから始まるが、病斑の垂直上位進展は、幼穂形成期頃から激しくなる。高温多湿条件下では収穫期まで病斑の上位進展が続き、重大な減収要因となる。このように、本病の発生期間は長期にわたるため、防除薬剤の性能として、すぐれた残効性が要求される。また、

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

本病の発生は、出穂期の前後にまたがるので、稔実障害等の薬害がないものが望ましい。

フルトラニルには予防及び治療効果があり、前述の浸透移行性と、病斑の上位進展の主体である菌糸に対する強い生育阻害力が有効に作用するため、防除効果の持続期間は長く、降雨による影響も少ない。また、幼穂形成期前後から出穂後までのいずれの時期に散布しても、薬斑や稔実障害等の薬害を生じない。すなわち、フルトラニルは散布適期幅の広い薬剤といえる。

他のリゾクトニア菌による野菜類の苗立枯病に対しては、種子粉衣処理あるいは土壌灌注処理で慣用されている既存剤と比較して低薬量ですぐれた防除効果を示す。

また、約 50 数種類の作物に対する薬害について検討した結果、芝（ペンクロスベントグラス）を除いて薬害を生じる作物は認められない。したがって、フルトラニルは人畜毒性や魚毒性も低いことから適正な使用方法を遵守すれば安全性の高い薬剤と考えられる。

IV. 適用及び使用上の注意

1. 適用病害虫の範囲及び使用方法

1) 種類：フルトラニル(2.0%)粉剤

名称：モンカットファイン粉剤 20DL

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルトラニルを含む農薬の総使用回数
稲	紋枯病 疑似紋枯症(褐色菌核病菌) 疑似紋枯症(褐色紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色菌核病菌)	3~4kg/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内 (小包装投入は 1 回以内)
ねぎ	オシロカラササケ	15kg/10a	は種前		全面土 壌散布	4 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、全面土 壌散布及び株元 散布は合計 3 回 以内)
	白絹病	10~15kg/10a	土寄せ時 但し、 収穫 30 日前まで	株元 散布	2 回以内	
こんにゃく		3kg/10a	培土時 但し、 収穫 30 日前まで	1 回		
キャベツ	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	20kg/10a	は種時~定植前	2 回以内	土壌 混和	6 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、定植前 の土壌混和は 2 回以内、散布は 3 回以内)

2) 種類：フルトラニル(15.0%)乳剤

名称：モンカット乳剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルトラニルを含む農薬の総使用回数
稲	紋枯病	1000~1500 倍	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内 (小包装投入は 1 回以内)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

3) 種類：フルトラニル(25.0%)水和剤  
 名称：モンカット水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルトラニルを含む農薬の総使用回数
稲	紋枯病 疑似紋枯症 (褐色菌核病菌) 疑似紋枯症 (赤色菌核病菌)	1000倍	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内 (小包装投入は 1回以内)
小麦	雪腐小粒菌核病	400倍	根雪前	2回以内		2回以内
みつば (水耕栽培)	立枯病	1000倍	収穫30日前まで	1回		2回以内 (種子粉衣は1回 以内、は種後は 1回以内)
ばれいしょ	黒あざ病	50~100倍	植付前		10分間種いも浸 漬又は種いもに 十分量散布	1回
きゅうり トマト ミニトマト	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	500~1000倍	は種時~ 子葉展開時	2回以内	希釈液3L/m <sup>2</sup> を 土壌面に灌注	2回以内 (種子粉衣は1回 以内、土壌灌注 は1回以内)
		種子重量の 0.5~1.0%	は種前		種子粉衣	
ピーマン (施設栽培)	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	500~1000倍	は種時~ 子葉展開時	2回以内	希釈液3L/m <sup>2</sup> を 土壌面に灌注	3回以内 (種子粉衣は1回 以内、土壌灌注 は2回以内)
		種子重量の 0.5~1.0%	は種前		種子粉衣	
ピーマン (露地栽培)	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	500~1000倍	は種時	1回	希釈液3L/m <sup>2</sup> を 土壌面に灌注	5回以内 (種子粉衣は1回 以内、は種時の 土壌灌注は1回 以内、は種後の 株元灌注は 3回以内)
		種子重量の 0.5~1.0%	は種前		種子粉衣	

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルトラニルを含む農薬の総使用回数
野菜類 豆類(種実) 飼料作物 花き類	リゾクトニア菌による 病害(苗立枯病等)	種子重量の 0.5~1.0%	は種前	1回	種子処理機に よる種子粉衣	1回

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

4) 種類：フルトラニル(50.0%)水和剤  
 名称：モンカット水和剤 50

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルトラニルを含む農薬の総使用回数	
稲	紋枯病	2000～2500倍	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内 (小包装投入は1回以内)	
小麦	雪腐小粒菌核病	800倍	根雪前	2回以内		2回以内	
みつば (水耕栽培)	立枯病	2000倍	収穫30日前まで	1回		2回以内 (種子粉衣は1回以内、は種後は1回以内)	
ばれいしょ	黒あざ病	100～200倍	植付前		瞬時～10分間 種いも浸漬処理	1回	
		10倍 (使用量は種いも1kg当り希釈液0.5～1mL)			種いも吹き付け 処理(帯電式少量噴霧装置使用)		
きゅうり トマト	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	1000～2000倍	は種時～ 子葉展開時		希釈液3L/m <sup>2</sup> を土壌面に灌注	2回以内 (種子粉衣は1回 以内、土壌灌注は 1回以内)	
		種子重量の 0.3～0.5%	は種前		種子粉衣		
ほうれん そう		1000～2000倍	は種直後		希釈液3L/m <sup>2</sup> を土壌面に灌注		
		種子重量の 0.5～1.0%	は種前		種子粉衣		
ふき	白絹病	1000～2000倍	定植時及び 生育期 (但し、収穫 30日前まで)		2回以内	希釈液3L/m <sup>2</sup> を土壌面に灌注	2回以内 (土壌混和は 1回以内)

5) 種類：フルトラニル(20.0%)水和剤  
 名称：モンカットフロアブル

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルトラニルを含む農薬の総使用回数
稲	紋枯病	1000～1500倍	—	収穫14日前 まで	3回以内	散布	3回以内 (小包装投入 は1回以内)
		300倍	25L/10a				
		原液	120ml/10a			空中散布	
		30倍	3L/10a				
	8倍	800ml/10a	無人ヘリコプター による散布				
	疑似紋枯症 (褐色菌核病菌) 疑似紋枯症 (赤色菌核病菌) 疑似紋枯症 (褐色紋枯病菌)	1000倍	—			散布	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

6) 種類：フルトラニル(30.0%)水和剤  
 名称：グラポストフロアブル

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルトラニルを含む農薬の総使用回数
芝 (日本芝)	葉腐病(ラジパッチ)	500~1000倍	発病初期	4回以内	1㎡当り 500mL 散布	8回以内
	フェアリーリング病	500倍			1㎡当り 5L 散布	
		1000倍			1㎡当り 3L 散布	
芝 (ペントグラス)	葉腐病(ブラウンパッチ)	500~1000倍			1㎡当り 500mL 散布	
	フェアリーリング病	500倍			1㎡当り 5L 散布	
		1000倍			1㎡当り 3L 散布	

7) 種類：フルトラニル(40.0%)水和剤  
 名称：モンカットフロアブル 40

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルトラニルを含む農薬の総使用回数
稲	紋枯病	2000倍	60~150 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内 (小包装投入は1回以内)
てんさい	葉腐病	250倍	25L/10a		4回以内		5回以内 (定植前の灌注は1回以内、散布は4回以内)
	根腐病	1000倍	100~300 L/10a	定植前	1回	灌注	
キャベツ	株腐病	2000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	6回以内 (種子粉衣は1回以内、定植前の土壌混和は2回以内、散布は3回以内)
しょうが	紋枯病			収穫3日前まで	5回以内		5回以内
葉しょうが				収穫7日前まで	3回以内		4回以内 (植付時の処理は1回以内、植付後は3回以内)
レタス	すそ枯病			1000~2000倍			収穫30日前まで
リーフレタス		2000倍					
サラダ菜	2000倍	—	植付前	1回	散布	1回	
ばれいしょ	黒あざ病	100~200倍					種いも 100kg当り 3L
		20倍					種いも 100kg当り 200~300mL

(次頁に続く)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	7ムラニルを含む農薬の総使用回数
だいず	白絹病	1000～2000倍	3L/m <sup>2</sup>	定植時及び生育期 但し、 収穫7日前まで	3回以内	株元散布	4回以内 (種子粉衣は 1回以内、は種後は 3回以内)
えだまめ				定植時及び生育期 但し、 収穫21日前まで			
ねぎ		2000倍	100～300 L/10a	土寄せ時 但し、 収穫30日前まで			
	オシロイバナ						4回以内 (種子粉衣は1回以 内、全面土壌散布及 び株元散布は合計 3回以内)
ピーマン (露地栽培)	白絹病	1000倍	1L/株	収穫前日まで		株元灌注	5回以内 (種子粉衣は1回以 内、は種時の土壌灌 注は1回以内、は種 後の株元灌注は3回 以内)
みょうが (花穂)	紋枯病	2000倍	3L/m <sup>2</sup>	収穫3日前まで	2回以内	土壌灌注	2回以内
みょうが (茎葉)				みょうが(花穂)の 収穫3日前まで 但し、花穂を収穫 しない場合にあって は開花期終了まで			
きゅうり トマト				は種時～ 子葉展開時			
花き類・ 観葉植物	白絹病	1000倍	100～300 L/10a	—	3回以内	株元散布	3回以内
樹木類	くもの巣病		200～700 L/10a	発病初期		土壌灌注	
えぞまつ(苗木) ととまつ(苗木)	苗立枯病 (リゾクトニア菌)		3L/m <sup>2</sup>	発芽後 (発病初期)		苗木兼 全面土壌散布	
畑わさび*	茎腐病	2000倍	100～300 L/10a	収穫30日前まで	2回以内	土壌灌注	3回以内 (種子粉衣は 1回以内、は種後は 2回以内)
にら (花茎)*	白絹病			1000倍		1L/株	
ししとう*							3回以内

\* 適用拡大申請中

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

8) 種類：イミノクタジン酢酸塩(10.0%)・フルトラニル(20.0%)水和剤

名称：日農モンカットベフランフロアブル

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミノクタジンを含む農薬の総使用回数	フルトラニルを含む農薬の総使用回数
小麦	雪腐大粒菌核病 紅色雪腐病 雪腐小粒菌核病	500倍	60～150L /10a	根雪前	2回以内	散布	4回以内 (種子への処理は1回以内、散布及び無人ヘリコプターによる散布は合計3回以内、出穂期以降は1回以内)	2回以内
	紅色雪腐病 雪腐小粒菌核病	125倍	25L/10a					
		4倍	800mL /10a			無人ヘリコプターによる散布		

9) 種類：フルトラニル(7.0%)粒剤

名称：モンカット粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルトラニルを含む農薬の総使用回数
稲	紋枯病	3～4kg /10a	出穂 30～10 日前 但し、収穫 14 日前まで	3回以内	湛水散布	3回以内 (小包装投入は1回以内)
ねぎ	白絹病	4～6kg /10a	土寄せ時 但し、収穫 30 日前まで		株元散布	4回以内 (種子粉衣は1回以内、全面土壌散布及び株元散布は合計3回以内)
	オシロイタケ	4kg/10a	は種前		全面土壌散布	
葉しょうが	紋枯病		4kg/10a	植付時	1回	土壌表面散布
		生育期 但し、収穫 3 日前まで*		3回以内*		

\* 適用拡大申請中

10) 種類：フルトラニル(21.0%)粒剤

名称：モンカット1キロ粒剤 21

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルトラニルを含む農薬の総使用回数
稲	紋枯病	1 kg/10a	出穂 30～10 日前 但し、収穫 14 日前まで	3回以内	湛水散布	3回以内 (小包装投入は1回以内)
					無人ヘリコプターによる散布	

11) 種類：フルトラニル(21.0%)粒剤

名称：ラクオー・モンカット

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルトラニルを含む農薬の総使用回数
稲	紋枯病	小包装(パック) 20個 (1 kg)/10a	出穂 30～10 日前 但し、収穫 14 日前まで	1回	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	3回以内 (小包装投入は1回以内)



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

12) 種類：フルスルファミド (0.20%)・フルトラニル(1.5%)粉剤

名称：ネビモン粉剤

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	フルスルファミド を含む 農薬の総 使用回数	フルトラニルを 含む農薬の 総使用回数
キャベツ	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	30kg/10a	は種時～ 定植前	2回以内	全面 土壌混和	2回以内	6回以内 (種子粉衣は 1回以内、定植 前の土壌混和 は2回以内、 散布は 3回以内)
	根こぶ病 株腐病		定植前				

13) 種類：フルトラニル (1.5%)・メタラキシル(1.5%)粉剤

名称：リドミルモンカット粉剤

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	フルトラニル を含む 農薬の総 使用回数	メタラキシル及 びメタラキシルM を含む 農薬の総 使用回数
こんにゃく	根腐病	5kg/10a	培土時 (但し、収穫30 日前まで)	1回	株元散布 (散布後土寄せ)	2回以内	1回
		5～10kg/10a	植付時		植溝土壌混和		
		20kg/10a			全面土壌混和		
	白絹病	5kg/10a	培土時 (但し、収穫30 日前まで)		株元散布 (散布後土寄せ)		
20kg/10a		植付時	全面土壌混和				

## 2. 使用上の注意事項

<p>1) 種類：フルトラニル(2.0%)粉剤 名称：モンカットファイン粉剤 20DL</p> <p>(1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。 (2) 本剤は飛散を少なくするように製剤されており、一般の粉剤に比べ見かけ比重がやや大きく、流動性が良いので、散布の際は散粉機の開度を一目盛程度しぼって散布すること。 (3) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。 ① ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。 ② 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。 (4) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。 (5) 本剤の使用にあたっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。</p>
<p>2) 種類：フルトラニル(15.0%)乳剤 名称：モンカット乳剤</p> <p>(1) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。 ① ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。 ② 養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に努めること。 (2) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。 (3) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。</p>
<p>3) 種類：フルトラニル(25.0%)水和剤 名称：モンカット水和剤</p> <p>(1) 希釈して使用する場合は、使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。また、種子粉衣の場合は、使用量に合わせ秤量し、使いきること。 (2) 石灰硫黄合剤、ボルドー液等との混用はさけること。 (3) 小麦の雪腐小粒菌核病防除に使用する場合は、散布液量は10アール当たり100ℓを標準とし、根雪近くに1～2回散布すること。なお、フザリウム菌、ピシウム菌、スクレロチニア菌による雪腐病に対しては効果が劣るので、これらの雪腐病が混発する地域ではそれらに有効な薬剤と組み合わせて使用すること。 (4) ばれいしょに対しては、所定濃度の薬液に10分間種いもを浸漬するか、種いもに十分量散布し、風乾後植付けること。 (5) 本剤で処理した種いもや、本剤を使用したつまみな、まびき菜等の幼植物は食用や飼料に供さないこと。 (6) 野菜類の苗立枯病防除では次の事項に注意すること。 ① リゾクトニア菌以外の苗立枯病には効果が劣るので、それらの苗立枯病との混発が予想される場合には、他の有効な薬剤と組み合わせて使用すること。 ② 種子粉衣の場合には、適当な容器内で薬剤が均一に付着するように粉衣すること。種子に所定量の薬量が付着しにくい場合には、種子をあらかじめ湿らせてから粉衣すること。 (7) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。 ① ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。 ② 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。 ③ 養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に努めること。 (8) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。</p>

(9) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。

4) 種類：フルトラニル(50.0%)水和剤  
名称：モンカット水和剤 50

- (1) 石灰硫黄合剤、ボルドー液等との混用はさけること。
- (2) 麦類の雪腐小粒菌核病防除に使用する場合は、散布液量は10アール当たり100Lを標準とし、根雪近くに1～2回散布すること。なお、フザリウム菌、ピシウム菌、スクレロチニア菌による雪腐病に対しては効果が劣るので、これらの雪腐病が混発する地域ではそれらに有効な薬剤と組み合わせて使用すること。
- (3) ばれいしょに使用する場合は次の事項に注意すること。
  - ① 種いも浸漬で使用する場合は、所定濃度の薬液に種いもを浸漬し、風乾後植付けること。
  - ② 種いも吹付け処理で使用する場合は、帯電式少量噴霧装置を使用し、所定量を均一に吹付け、風乾後植付けること。
- (4) 本剤で処理した種いもは食糧や飼料として用いないこと。
- (5) 野菜類の苗立枯病防除では次の事項に注意すること。
  - ① リゾクトニア菌以外の苗立枯病には効果が劣るので、それらの苗立枯病との混発が予想される場合には、他の有効な薬剤と組み合わせて使用すること。
  - ② 種子粉衣の場合には、適当な容器内で薬剤が均一に付着するように粉衣すること。  
種子に所定量の薬量が付着しにくい場合には、種子をあらかじめ湿らせてから粉衣すること。
  - ③ ほうれんそうに対しては、催芽後の粉衣で初期生育が抑制される場合があるので注意すること。
- (6) ふきに対し生育期に灌注する場合には、ふきの地際部にもかかるように株元を重点的に作条散布すること。
- (7) みつばの立枯病に使用する場合は、散布むらのないよう、株元に均一に散布すること。
- (8) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - ① ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
  - ② 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
  - ③ 養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に努めること。
- (9) 蚕に対して毒性があるので、桑にはかからないように注意して散布すること。
- (10) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

5) 種類：フルトラニル(20.0%)水和剤  
名称：モンカットフロアブル

- (1) 希釈して使用する場合は、使用量に合わせて薬液を調製し、使いきる。また、希釈せずに使用する場合は、使用量に合わせて秤量し、使いきる。
- (2) 本剤を空中散布及び無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - ① 散布は散布機種 of 散布基準に従って実施すること。
  - ② 無人ヘリコプターによる散布にあつては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - ③ 散布中、薬液が漏れないように機体の散布用配管、その他散布装置の十分な点検を行うこと。
  - ④ 散布薬剤の飛散によって自動車やカラートタンの塗装等に影響を与えないよう散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
  - ⑤ 水源池、飲料用水等に本剤が飛散流入しないよう十分注意すること。
  - ⑥ 散布終了後は次の項目を守ること。
    - (a) 使用後の空容器は圃場などに放置せず適切に処理すること。
    - (b) 機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
- (3) 本剤を本田の水稻に対して希釈倍数300倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用すること。

- (4) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
- ① ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - ② 関係機関（都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (5) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。

6) 種類：フルトラニル(30.0%)水和剤  
名称：グラポストフロアブル

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 使用前に軽く容器を振ること。
- (3) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
- ① ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
  - ② 関係機関（都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (4) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (5) 本剤を散布する場合は、散布液の飛散によって自動車の塗装等に被害を生ずるおそれがあるので注意すること。
- (6) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

7) 種類：フルトラニル(40.0%)水和剤  
名称：モンカットフロアブル 40

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
- ① ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
  - ② 関係機関（都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (3) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (4) 本剤を散布する場合は、散布液の飛散によって自動車の塗装等に被害を生ずるおそれがあるので注意すること。
- (5) てんさいに希釈倍数 250 倍で使用する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の速度連動式地上液剤散布装置を用いて葉面に均一に散布すること。
- (6) ばれいしょの種いもに処理する場合、所定濃度の薬液で種いも浸漬又は散布し、風乾後植付けること。
- (7) ばれいしょの種いもに希釈倍数 20 倍で使用する場合は、少量散布に適合したノズルを用いて均一に散布すること。
- (8) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (9) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

<p>8) 種類：イミノクタジン酢酸塩(10.0%)・フルトラニル(20.0%)水和剤 名称：日農モンカットベフランフロアブル</p>
<p>(1) 使用に際しては、容器をよく振ること。 (2) 本剤を希釈倍数125倍で使用する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の速度連動式地上液剤散布装置を用いて均一に散布すること。 (3) 本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は次の注意を守ること。 ① 散布液調製後はできるだけ速やかに散布すること。 ② 散布は各散布機種種の散布基準に従って実施すること。 ③ 微量散布装置以外の散布器具は使用しないこと。 ④ 散布機種種に適合した散布装置を使用すること。 ⑤ 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。 ⑥ 散布薬液の飛散によって自動車の塗装やカーポートの塗装等へ影響を与えないよう、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。 ⑦ 散布終了後は次の事項を守ること。 1) 使用後の空容器は放置せず安全な場所に廃棄すること。 2) 機体の散布装置は十分洗浄し薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。 (4) 本剤はイミノクタジンを含む農薬であるので、他のイミノクタジンを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲内で使用すること。 (5) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。</p>
<p>9) 種類：フルトラニル(7.0%)粒剤 名称：モンカット粒剤</p>
<p>(1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。 (2) 散布に当っては、田水深を3cm以上の湛水状態とし、散布後少なくとも3～4日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。なお、極端な漏水田での使用はさけること。 (3) 本剤の使用適期は通常出穂20日前頃であるが、稲の品種あるいは地域により前後することがあり、また、多発時の散布は効果が劣る場合があるので、使用に当っては病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。</p>
<p>10) 種類：フルトラニル(21.0%)粒剤 名称：モンカット1キロ粒剤21</p>
<p>(1) 散布に当たっては、田水深を3cm以上の湛水状態とし、散布後少なくとも3～4日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。なお、極端な漏水田での使用はさけること。 (2) 朝露や降雨により葉がぬれている場合は、粒剤が直接葉に付着して薬害を生ずるおそれがあるので使用を避けること。 (3) 本剤を無人ヘリコプターで散布する場合は、次の事項に注意すること。 ① 専用の粒剤散布装置によって湛水散布すること。 ② 事前に薬剤の物理性に合わせて粒剤散布装置のメタリング開度を調整すること。 ③ 散布薬剤の飛散によって他の動植物等へ影響を与えないよう散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。 ④ ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。 (a) ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。 (b) 養蜂が行われている地区では都道府県の畜産部局と連絡し、ミツバチの危害防止に努めること。 ⑤ 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。</p>

(4) 本剤の使用適期は通常出穂 20 日前頃であるが、稲の品種あるいは地域により前後することがあり、また、多発時の散布は効果が劣る場合があるので、使用に当っては病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

11) 種類：フルトラニル(21.0%)粒剤  
名称：ラクオー・モンカット

- (1) 小包装（パック）に使用しているフィルムは水溶性のため、ぬれた手や汗ばんだ手で作業したり、降雨等で破袋しないように注意すること。
- (2) 本剤は水溶性フィルムで小包装した製剤をそのまま、1 アール当り 2 個の割合で水田に均一に投げ入れること。
- (3) 本剤は湛水状態（水深 3～5 cm）で投げ込み散布し、散布後少なくとも 3～4 日間はそのまま湛水状態を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないよう注意し、また、散布後 7 日間は落水、かけ流しはしないこと。
- (4) 藻や浮草、雑草が繁茂している水田では拡散が不十分となり効果の劣る可能性があるので使用を避けること。
- (5) 朝露や降雨により葉がぬれている場合は、粒剤が直接葉に付着して薬害を生ずるおそれがあるので使用を避けること。
- (6) 本剤の使用適期は紋枯病の水平進展期であり通常、西日本普通作地域では 7 月中～下旬、東日本及び西日本早期作地域では、7 月上～中旬となるが、稲の品種あるいは地域により前後することがあり、また、紋枯病の垂直進展期や多発時の散布は効果が劣る場合があるので、使用に当っては病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

12) 種類：フルスルファミド (0.20%)・フルトラニル(1.5%)粉剤  
名称：ネビモン粉剤

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 本剤の所定量を全面に散布し、土壌とよく混和した後、植付けすること。
- (3) 蚕に対して毒性があるので桑にはかからないように注意すること。
- (4) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

13) 種類：フルトラニル (1.5%)・メタラキシル(1.5%)粉剤  
名称：リドミルモンカット粉剤

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 本剤を植付時に使用する場合、所定量を土壌表面または植溝に施用し、十分土壌と混和すること。
- (3) 本剤は全面土壌混和处理で生育初期に、葉がやや黄化する薬害を生ずる場合があるので、根腐病のみを対象とする場合には植溝土壌混和处理とすること。
- (4) 高温乾燥の土壌条件下では、茎葉が黄化する薬害を生ずるおそれがあるので、10 アール当り 5 kg の植溝土壌混和で使用する事。
- (5) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

### 3. 水産動植物に有害な農薬については、その旨

- 1) 種類：フルトラニル(2.0%)粉剤  
名称：モンカットファイン粉剤 20DL

(1)水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。  
(2)水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。  
(3)散布後は水管理に注意すること。

- 2) 種類：フルトラニル(15.0%)乳剤  
名称：モンカット乳剤

水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。

- 3) 種類：フルトラニル(25.0%)水和剤  
名称：モンカット水和剤

水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。

- 4) 種類：フルトラニル(50.0%)水和剤  
名称：モンカット水和剤 50

水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。

- 5) 種類：フルトラニル(20.0%)水和剤  
名称：モンカットフロアブル

(1)水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。  
(2)空中散布及び無人ヘリコプターによる散布で使用する場合は、河川、養殖池等に飛散しないよう特に注意すること。

- 6) 種類：フルトラニル(30.0%)水和剤  
名称：グラポストフロアブル

水産動植物（魚類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

- 7) 種類：フルトラニル(40.0%)水和剤  
名称：モンカットフロアブル40

水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。

- 8) 種類：イミノクタジン酢酸塩（10.0%）・フルトラニル（20.0%）水和剤  
名称：日農モンカットベフランフロアブル

使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

- 9) 種類：フルトラニル(7.0%)粒剤  
名称：モンカット粒剤

水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。

- 10) 種類：フルトラニル(21.0%)粒剤  
名称：モンカット1キロ粒剤21

水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。

- 11) 種類：フルトラニル(21.0%)粒剤  
名称：ラクオー・モンカット

水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。

- 12) 種類：フルスルファミド（0.20%）・フルトラニル(1.5%)粉剤  
名称：ネビモン粉剤

この登録に係る使用方法では該当がない。

- 13) 種類：フルトラニル（1.5%）・メタラキシル（1.5%）粉剤  
名称：リドミルモンカット粉剤

この登録に係る使用方法では該当がない。



V. 残留性及び環境中予測濃度算定関係

1. 作物残留性試験

(1) 分析法の原理と操作概要

- 1) 粉碎試料中のフルトラニルをアセトンまたはアセトニトリル/水で抽出し、濃縮後凝固処理し、n-ヘキサンで抽出する。次にシリカゲルまたはフロリジルミニカラムで精製し、アセトン溶解後、N-P FID GLC または FTD GLC、LC-MS(/MS)、GC-NPD を用いて定量する。
- 2) 粉碎試料中のフルトラニルをアセトンで抽出し、多孔性ケイソウ土カラムで精製後、ENVI-Carb/LC-NH2 ミニカラムまたはグラファイトカーボンミニカラム、フロリジルミニカラムによる精製を行い、GC-FTD または LC-MS/MS を用いて定量する。
- 3) 粉碎試料中のフルトラニルをアセトンで抽出し、ろ過後に抽出液を濃縮し、酢酸エチルで抽出・分配する。脱水、抽出後フロリジルカラムで精製し、アセトン溶解後、GC-MS を用いて定量する。

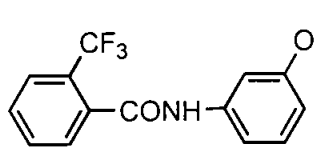
(2) 分析対象の化合物

化学名：  $\alpha, \alpha, \alpha$ -トリフルオロ-3'-イソプロポキシ-*o*-トルアニリド

分子式：  $C_{17}H_{16}NO_2F_3$

分子量： 323.3

代謝経路図中の記号： (A)

名 称	化学名・構造式	分子式 (分子量)	代謝経路図 中での記号
フルトラニル	$\alpha, \alpha, \alpha$ -トリフルオロ-3'-イソプロポキシ- <i>o</i> -トルアニリド 	$C_{17}H_{16}NO_2F_3$ (323.3)	A

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

(3) 残留試験結果

水稻

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料 調製 場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					フルトラニル		フルトラニル		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
No. 2 水稻 (露地) [玄米] 昭和 55 年度	水和剤 (25.0%)  500 倍 (150L/10a)  散 布	(財) 残留農薬研究所	和歌山農試	0	-	0.006	0.006	<0.05	<0.05
				3	17	0.075	0.070	0.07	0.06
				3	24	0.098	0.097	0.07	0.06
				3	33	0.214	0.213	0.17	0.14
				3	48	0.057	0.056	<0.05	<0.05
		日本農薬㈱	熊本農試	0	-	<0.005	<0.005	<0.05	<0.05
				3	14	0.116	0.114	0.09	0.07
				3	21	0.148	0.148	0.13	0.12
				3	30	0.268	0.253	0.19	0.16
				3	45	0.058	0.054	0.10	0.08
No. 2 水稻 (露地) [稲わら] 昭和 55 年度	散 布	(財) 残留農薬研究所	和歌山農試	0	-	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05
				3	17	8.40	8.38	7.40	6.77
				3	24	7.50	7.40	6.70	6.15
				3	33	1.02	0.96	0.76	0.63
				3	48	0.34	0.33	0.21	0.20
		日本農薬㈱	熊本農試	0	-	0.07	0.06	<0.05	<0.05
				3	14	4.97	4.80	6.92	6.63
				3	21	3.32	3.31	3.79	3.78
				3	30	2.25	2.22	2.00	1.78
				3	45	0.51	0.50	0.40	0.30
No. 14 水稻 (露地) [玄米] 昭和 58 年度	粒剤 (7.0%)  4kg/10a  散 布	(財) 残留農薬研究所	石川農試	0	-	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
				3	30	0.042	0.042	0.03	0.03
				3	44	0.034	0.034	0.02	0.02
				3	58	0.029	0.028	0.02	0.02
				日本農薬㈱	日植防高知	0	-	<0.005	<0.005
		3	30			0.044	0.044	0.04	0.04
		3	45			0.041	0.040	0.05	0.04
		3	60			0.050	0.050	0.05	0.04
		日本農薬㈱	石川農試			0	-	0.07	0.07
				3	30	11.6	11.4	16.95	16.80
3	44			1.50	1.46	2.46	2.44		
3	58			2.51	2.50	2.54	2.37		
日本農薬㈱	日植防高知			0	-	0.02	0.02	<0.05	<0.05
		3	30	9.96	9.73	5.55	5.45		
		3	45	7.99	7.96	16.65	12.88		
		3	60	2.73	2.70	2.90	2.72		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)						
					公的分析機関		社内分析機関				
					フルトラニル		フルトラニル				
					最高値	平均値	最高値	平均値			
No. 66 水稻 (露地) [玄米] 平成 19 年度	粒剤 (7.0%) 4kg/10a	(財) 残留農薬研究所			(株) 化学分析コンサルタント						
					日植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
					防	3	7	0.01	0.01	0.02	0.02
					研	3	14	0.01	0.01	0.02	0.02
					牛	3	21	0.03	0.03	0.04	0.04
					久	3	28	0.04	0.04	0.03	0.03
					日植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
					防	3	7	0.02	0.02	0.03	0.03
					研	3	14	0.01	0.01	0.02	0.02
					成	3	21	0.04	0.04	0.03	0.03
東	3	28	0.03	0.03	0.03	0.03					
No. 66 水稻 (露地) [稲わら] 平成 19 年度	湛水散布	(財) 残留農薬研究所			(株) 化学分析コンサルタント						
					日植	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
					防	3	7	8.47	8.36	10.7	10.6
					研	3	14	3.42	3.42	4.96	4.91
					牛	3	21	9.07	9.01	8.09	8.01
					久	3	28	2.03	2.03	4.86	4.81
					日植	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
					防	3	7	4.40	4.37	6.84	6.60
					研	3	14	5.07	5.06	7.32	7.06
					成	3	21	4.16	4.12	4.12	4.00
東	3	28	6.21	6.13	5.97	5.96					

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					フルトラニル		フルトラニル		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
No. 34 水稻 [玄米] 平成 6 年度	粒剤 (21.0%) 1kg/10a	福井植防	0	-	-	-	0.02	0.02	
			3	42	-	-	0.07	0.07	
	及び 粒剤 (7.0%) 4kg/10a	和歌山植防	0	-	-	-	<0.01	<0.01	
			3	45	-	-	0.02	0.02	
	No. 34 水稻 [稲わら] 平成 6 年度	散布 1, 2回目: 7.0%粒剤 3回目: 21.0%粒剤	福井植防	0	-	-	-	0.30	0.29
				3	42	-	-	2.07	1.93
		和歌山植防	0	-	-	-	<0.05	<0.05	
			3	45	-	-	9.00	8.17	
No. 18 水稻 (露地) [玄米] 昭和 61 年度	粉剤 DL (1.5%) 4kg/10a	日植防研・牛久	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			3	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			3	21	0.032	0.032	0.016	0.015	
			3	30	0.034	0.033	0.028	0.027	
			3	45	0.005	0.005	<0.005	<0.005	
		熊本農試・阿蘇分場	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			3	14	0.007	0.006	<0.005	<0.005	
			3	21	0.065	0.063	0.051	0.042	
			3	30	0.045	0.045	0.050	0.042	
			3	45	0.021	0.020	0.015	0.014	
	No. 18 水稻 (露地) [稲わら] 昭和 61 年度	散布	日植防研・牛久	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				3	14	0.07	0.06	0.16	0.16
				3	21	0.61	0.61	0.37	0.36
				3	30	0.60	0.60	0.14	0.13
				3	45	0.85	0.82	0.24	0.20
			熊本農試・阿蘇分場	0	-	0.01	0.01	<0.01	<0.01
				3	14	0.23	0.22	0.20	0.20
				3	21	0.81	0.79	0.54	0.53
		3	30	0.27	0.26	1.03	0.88		
		3	45	0.29	0.28	2.88	2.40		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料 調製 場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					フルトラニル		フルトラニル		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
					(財) 残留農薬研究所		日本エコテック㈱		
No. 28 水稻 (露地) [玄米]  平成5年度	粉剤 DL (2.0%)  4kg/10a  散 布	千葉 防除 所	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	14	0.20	0.20	0.18	0.18	
			3	21	0.08	0.08	0.06	0.06	
			3	28	0.06	0.06	0.04	0.04	
			3	36	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		長野 植防 ・	南信	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				3	14	0.18	0.18	0.14	0.14
				3	21	0.10	0.10	0.08	0.08
				3	28	0.07	0.07	0.06	0.06
				3	38	0.04	0.04	0.03	0.03
		愛知 総農 試	-	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				3	14	0.03	0.03	0.02	0.02
				3	21	0.01	0.01	<0.01	<0.01
				3	28	0.02	0.02	0.01	0.01
				3	35	0.01	0.01	<0.01	<0.01
		兵庫 植防	-	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				3	14	0.06	0.06	0.08	0.08
				3	21	0.08	0.08	0.07	0.07
				3	28	0.06	0.06	0.05	0.05
				3	35	0.06	0.06	0.05	0.04
No. 28 水稻 (露地) [稲わら]  平成5年度	散 布	千葉 防除 所	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
			3	14	1.76	1.72	1.63	1.62	
			3	21	0.44	0.44	0.49	0.49	
			3	28	0.29	0.28	0.15	0.14	
			3	36	0.12	0.12	0.49	0.48	
		長野 植防 ・	南信	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
				3	14	3.46	3.40	4.04	4.02
				3	21	2.26	2.16	1.52	1.51
				3	28	0.84	0.84	0.75	0.74
				3	38	0.30	0.30	0.40	0.39
		愛知 総農 試	-	0	-	0.05	0.05	0.07	0.07
				3	14	2.27	2.21	3.35	3.29
				3	21	0.94	0.92	2.00	1.97
				3	28	1.38	1.34	2.15	2.10
				3	35	1.40	1.38	1.15	1.14
		兵庫 植防	-	0	-	0.05	0.05	<0.05	<0.05
				3	14	0.76	0.76	1.58	1.56
				3	21	0.78	0.78	0.76	0.76
				3	28	1.67	1.65	1.97	1.96
				3	35	0.45	0.44	0.39	0.38

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年 度	剤 型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分 析 結 果 (ppm)					
					公的分析機関		社内分析機関			
					フルトラニル		フルトラニル			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
No. 25 水稻 (露地) [玄米]  平成 2 年度	乳 剤 (15%)  1000 倍 150L/10a  散 布	滋賀 植防	0	-	(財) 日本食品分析センター		(株) 化学分析コンサルタント			
			3	14	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005		
			3	28	0.04	0.04	0.049	0.049		
			3	42	0.04	0.04	0.049	0.048		
			3	42	0.03	0.02	0.030	0.028		
			3	56	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005		
			0	-	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005		
			3	14	0.11	0.10	0.106	0.104		
			3	28	0.29	0.28	0.399	0.385		
			3	42	0.09	0.08	0.120	0.119		
		3	56	<0.01	<0.01	0.005	0.005			
		No. 25 水稻 (露地) [稲わら]  平成 2 年度	散 布	滋賀 植防	0	-	<0.04	<0.04	<0.01	<0.01
					3	14	0.79	0.76	0.51	0.50
					3	28	0.23	0.22	0.50	0.48
3	42				0.10	0.10	0.29	0.28		
3	56				0.06	0.05	0.23	0.22		
広島 植防	0			-	<0.04	<0.04	<0.01	<0.01		
	3			14	0.26	0.25	0.68	0.66		
	3			28	0.36	0.36	0.38	0.36		
3	42	0.19	0.18	0.18	0.18					
		3	56	0.17	0.16	0.11	0.10			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					フルトラニル		フルトラニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 7 水稲 (露地) [玄米] 昭和 57 年度	水和剤 (65%) 13 倍 0.8L/10a 航空散布	三重農技センター	0	-	(財) 残留農薬研究所		日本農薬㈱	
			1	40	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	水和剤 (50.0%) 2000 倍 160L/10a 散布	三重農技センター	1	40	0.007	0.006	0.010	0.008
			1	40	0.052	0.051	0.042	0.039
	水和剤 (65%) 13 倍 0.8L/10a 航空散布	福島農試	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			1	62	0.011	0.011	0.010	0.010
	水和剤 (50.0%) 2000 倍 160L/10a 散布	福島農試	1	62	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
水和剤 (65%) 13 倍 0.8L/10a 航空散布	三重農技センター	1	40	0.47	0.44	0.22	0.14	
		1	40	0.94	0.92	1.17	1.02	
水和剤 (65%) 13 倍 0.8L/10a 航空散布	福島農試	0	-	0.82	0.78	0.73	0.72	
		1	62	3.26	3.24	1.57	1.44	
水和剤 (50.0%) 2000 倍 160L/10a 散布	福島農試	1	62	1.06	1.01	0.48	0.44	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料 調製 場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					フルトラニル		フルトラニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 9 水稻 (露地) [玄米] 昭和 59 年度	フロアブル剤 (11%) 原液 0.3L/10a 航空散布	岩手農試	0	-	(財) 残留農薬研究所		日本農薬㈱	
			1	41	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	水和剤 (50%) 2000 倍 132L/10a 散布	岩手農試	1	41	0.050	0.049	0.025	0.024
			1	41	0.179	0.170	0.132	0.127
	フロアブル剤 (11%) 原液 0.3L/10a 航空散布	秋田中央防除所	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			1	43	0.133	0.130	0.093	0.084
	水和剤 (50%) 2000 倍 132L/10a 散布	秋田中央防除所	1	43	0.174	0.172	0.128	0.127
No. 9 水稻 (露地) [稲わら] 昭和 59 年度	フロアブル剤 (11%) 原液 0.3L/10a 航空散布	岩手農試	0	-	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			1	41	1.73	1.61	1.23	1.20
	水和剤 (50%) 2000 倍 132L/10a 散布	岩手農試	1	41	0.58	0.58	0.42	0.42
	フロアブル剤 (11%) 原液 0.3L/10a 航空散布	秋田中央防除所	0	-	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			1	43	1.22	1.18	0.93	0.92
	水和剤 (50%) 2000 倍 132L/10a 散布	秋田中央防除所	1	43	0.52	0.52	0.90	0.78



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					フルトラニル		フルトラニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 21 水稻 (露地) [玄米] 平成2年度	フロアブル剤 (20.0%)  8倍 0.8L/10a  無人ヘリ散布	農林水産航空協会・静岡	0	-	-	-	0.007	0.006
			3	14			0.123	0.116
		農林水産航空協会・長野	0	-	-	-	<0.005	<0.005
			3	16			0.316	0.314
No. 24 水稻 (露地) [玄米] 平成3年度	フロアブル剤 (20.0%)  5倍 0.8L/10a  無人ヘリ散布	農林水産航空協会・静岡	0	-	-	-	<0.005	<0.005
			3	15			0.041	0.040
		農林水産航空協会・長野	0	-	-	-	<0.005	<0.005
			3	14			0.036	0.035

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					フルトラニル		フルトラニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 27 水稻 (露地) [玄米] 平成5年度	フロアブル剤 (20.0%)  140, 300倍 25L/10a  散布 (フォームスプレーによる) a: 140倍希釈液 b: 300倍希釈液	日植 防研	0	-	-		日本エコテック㈱	
			3 <sup>a</sup>	14	-	-	<0.01	<0.01
			3 <sup>b</sup>	14	-	-	0.31	0.31
		石川 植防	0	-	-		<0.01	<0.01
			3 <sup>a</sup>	14	-	-	0.09	0.09
			3 <sup>b</sup>	14	-	-	0.17	0.17
No. 27 水稻 (露地) [稲わら] 平成5年度	同上	日植 防研	0	-	-		<0.05	<0.05
			3 <sup>a</sup>	14	-	-	3.89	3.66
			3 <sup>b</sup>	14	-	-	1.82	1.80
		石川 植防	0	-	-		<0.05	<0.05
			3 <sup>a</sup>	14	-	-	1.11	0.96
			3 <sup>b</sup>	14	-	-	1.57	1.46
No. 39 水稻 [玄米] 平成7年度	油剤 (22.0%)  原液 1L/10a  散布 a: 粒剤(7.0%、 4kg/10a)を2回 散布後、油剤を1 回散布	石川 県農 総試	0	-	(財)食品分析センター		日本エコテック㈱	
			3	50	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1 <sup>a</sup>	50	0.01	0.01	0.02	0.02
			(+2)	50	-	-	0.06	0.06
		愛知 県農 総試	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	43	0.04	0.04	0.07	0.07
			1 <sup>a</sup>	43	-	-	0.19	0.18
			(+2)	43	-	-	0.19	0.18
No. 39 水稻 [稲わら] 平成7年度	同上	石川 県農 総試	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	50	0.35	0.34	0.47	0.47
		愛知 県農 総試	1 <sup>a</sup>	50	-	-	1.59	1.55
			(+2)	50	-	-	1.59	1.55
No. 39 水稻 [稲わら] 平成7年度	同上	愛知 県農 総試	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	43	3.06	3.06	4.44	4.11
		愛知 県農 総試	1 <sup>a</sup>	43	-	-	7.44	7.20
			(+2)	43	-	-	7.44	7.20

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料 調製 場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)					
					公的分析機関		社内分析機関			
					フルトラニル		フルトラニル			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
No. 65 水稻 (露地) [玄米] 平成 19 年度	フロアブル剤 (20.0%)  1000 倍 150L/10a  散布	(財) 残留農薬研究所	日本エコテック㈱	岐	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				阜	3	7	0.39	0.38	0.61	0.58
				植	3	14	0.32	0.32	0.51	0.49
				防	3	28	0.38	0.37	0.56	0.54
		徳島	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			3	7	0.33	0.33	0.48	0.46		
			3	14	0.32	0.32	0.35	0.34		
			3	28	0.23	0.22	0.39	0.28		
		No. 65 水稻 (露地) [稲わら] 平成 19 年度	散布	岐	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
				阜	3	7	6.17	6.08	9.79	9.64
				植	3	14	2.78	2.75	6.61	6.34
				防	3	28	1.33	1.28	1.80	1.70
徳島	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05				
	3	7	5.85	5.72	11.5	11.2				
	3	14	3.45	3.42	6.53	6.46				
	3	28	1.97	1.94	3.27	3.19				

小麦

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					フルトラニル		フルトラニル		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
No. 3 小麦 [脱穀した 種子] 昭和 55 年度	水和剤 (25.0%)  500 倍 150L/10a  散布	埼玉植防	0	-	(財) 残留農薬研究所		日本農薬㈱		
			4	13	<0.005	<0.005	<0.02	<0.02	
			4	13	0.172	0.163	0.14	0.13	
			4	20	0.098	0.098	0.06	0.06	
			4	29	0.032	0.032	0.04	0.03	
			4	49	<0.005	<0.005	<0.02	<0.02	
			0	-	<0.005	<0.005	<0.02	<0.02	
			4	14	0.550	0.508	0.42	0.40	
			4	21	0.262	0.258	0.18	0.17	
			4	30	0.175	0.168	0.10	0.08	
	4	56	<0.005	<0.005	<0.02	<0.02			
	No. 15 小麦 [脱穀した 種子] 昭和 59 年度	粉剤 (1.5%)  4kg/10a  散布	山形農試・最北支場	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				4	13	0.034	0.034	0.036	0.036
				4	20	0.018	0.018	0.021	0.018
水和剤 (50.0%) 800 倍 100L/10a  及び 粉剤 (1.5%) 4kg/10a  散布 1回目, 2回目: 水和剤散布 3回目, 4回目: 粉剤散布		4		13	0.052	0.052	0.054	0.054	
		4		20	0.015	0.014	0.018	0.016	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					フルトラニル		フルトラニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 15② 小麦 [脱穀した種子] 昭和 60 年度	粉 剤 (1.5%) 4kg/10a 散 布	岩 手 農 試	0 4 4 4 4 4 4 4	- 16 23  16 23  16 23 55	(財) 残留農薬研究所		日本農薬㈱	
					<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
					0.015	0.015	0.012	0.011
	0.008				0.008	<0.005	<0.005	
	水和剤 (50.0%) 800 倍 100L/10a 及び 粉 剤 (1.5%) 4kg/10a 散 布 1 回目, 2 回目 : 水和剤散布 3 回目, 4 回目 : 粉剤散布				<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
					0.017	0.016	<0.005	<0.005
					0.006	0.006	<0.005	<0.005
					-		-	
					-		-	
					-		-	
-		-						
No. 15③ 小麦 [脱穀した種子] 昭和 59 年度	水和剤 (50.0%) 800 倍 100L/10a 及び 粉 剤 (1.5%) 4kg/10a 散 布 1 回目, 2 回目 : 水和剤散布 3 回目, 4 回目 : 粉剤散布	岩 手 農 試	0 4 4 4 4	- 15 25 34 55	-		-	
					<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
					<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
					<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
					<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
					<0.005	<0.005	<0.005	<0.005

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

作物名 [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					フルトラニル		フルトラニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財) 東京顕微鏡院		日本エコテック㈱	
資料No.67 小麦  [脱穀した 種子] 平成 18 年度	フロアブル (40.0%) 1000 倍 100L/10a 散布	北海道 植防	0 2	- 254	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
	フロアブル (40.0%) 1000 倍 120、150L/10a 散布	日植防研	0 2	- 188	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
					(財) 残留農薬研究所		日本エコテック㈱	
資料No.70 小麦  [脱穀した 種子] 平成 19 年度	フロアブル (20.0%) 4 倍 0.8L/10a 無人ヘリ散布	北海道 植防	0 2	- 248	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
	フロアブル (20.0%) 4 倍 0.776~ 0.827L/10a 無人ヘリ散布	青森植防	0 2	- 209	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
資料No.74 小麦  [脱穀した 種子] 平成 20 年度	フロアブル (20.0%) 125 倍	北海道 植防	0 2	- 259	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
	25L/10a 散布	青森植防	0 2	- 215	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)	
					公的分析機関	
					フルトラニル	
					最高値	平均値
					日本エコテック㈱	
GLP 試験 資料No.81 小麦 (露地) [玄麦] 平成 24 年度	フロアブル (40.0%)  640 倍 150L/10a (背森) 99L/10a (岩手)  散布	背森植防	0 2	- 216	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
		岩手植防	0 2	- 225	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
GLP 試験 資料No.82 小麦 (露地) [玄麦] 平成 24 年度	フロアブル (40.0%)  250 倍 25L/10a  散布	背森植防	0 2	- 216	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
		岩手植防	0 2	- 225	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
(一財) 残留農薬研究所						
GLP 試験 資料No.83 小麦 (露地) [玄麦] 平成 24 年度	フロアブル (40.0%)  8 倍 0.8L/10a  無人ヘリ散布	背森植防	0 2	- 82	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
		岩手植防	0 2	- 224	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

大豆

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料 調製 場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					フルトラニル		フルトラニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 32 大豆 [乾燥子実] 平成4年度	水和剤 (50.0%)  1000倍  灌 注 (3L/m <sup>2</sup> 、2回) 散 布 (120L/10a、1 回)	北海道・ 北見農試	0	-	(財) 残留農薬研究所		日本農薬㈱	
			3 <sup>a</sup>	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			3 <sup>a</sup>	14	0.067	0.066	0.063	0.062
			3 <sup>a</sup>	21	0.072	0.070	0.060	0.059
	水和剤 (50.0%)  1000倍  灌 注 (3L/m <sup>2</sup> 、2回) 散 布 (200L/10a、1 回)	長野 中信農試	0	-	0.014	0.014	0.014	0.012
			3 <sup>b</sup>	7	0.207	0.198	0.156	0.153
			3 <sup>b</sup>	14	0.064	0.062	0.059	0.058
			3 <sup>b</sup>	21	0.085	0.082	0.070	0.067

a: 1回目: は種直後如露にて散布、2回目: 培土(土寄せ)時如露にて灌注、3回目: 散布。

b: 1回目: は種直後、2回目: 培土(土寄せ)直後、3回目: 成熟前7日。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料 調製 場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					フルトラニル		フルトラニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 43 大豆 [乾燥子実] 平成9年度	フロアブル剤 (40.0%)  1000倍  散 布	福井 植防	0	-	(財) 東京顕微鏡院		日本エコテック㈱	
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	1回目土壌、 2回目株元: 3L/m <sup>2</sup> 3回目: 200L/10a	広島 植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	0.13	0.13	0.15	0.15
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	21	0.13	0.12	0.15	0.14



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

ばれいしょ

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年 度	剤 型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					フルトラニル		フルトラニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 4 ばれいしょ [塊茎] 昭和 56 年度	水和剤 (25.0%)  10 倍  種いも浸漬				(財) 残留農薬研究所		日本農薬㈱	
					北海道北見農試	0	-	<0.004
		北海道北見農試	1	79	<0.004	<0.004	<0.005	<0.005
		長崎総農試	0	-	<0.004	<0.004	<0.005	<0.005
			1	100	<0.004	<0.004	<0.005	<0.005
		水和剤 (25.0%)  25 倍  種いも浸漬	北海道北見農試	1	79	<0.004	<0.004	<0.005
	長崎総農試		1	100	<0.004	<0.004	<0.005	<0.005

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					フルトラニル		フルトラニル		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
No. 37 ばれいしょ [塊茎] 平成6年度	フロアブル剤 (40.0%)  8倍  吹き付け  生重量の0.1% 帯電式噴霧	北海道中央農試	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			1	139	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
		群馬園試	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			1	138	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
		フロアブル剤 (40.0%)  80倍  浸漬	北海道中央農試	1	139	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				群馬園試	1	138	<0.005	<0.005	<0.005
	水和剤 (50.0%)  10倍  吹き付け  生重量の0.1% 帯電式噴霧	北海道中央農試	1		139	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			群馬園試	1	138	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		水和剤 (50.0%)  100倍  浸漬		北海道中央農試	1	139	<0.005	<0.005	<0.005
			群馬園試		1	138	<0.005	<0.005	<0.005

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

作物名 (栽培形態)  [分析部位] 年度	剤 型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経 過 日 数	分析結果 (p p m)	
					公的分析機関	
					フルトラニル	
					最高値	平均値
					日本エコテック㈱	
GLP 試験  資料No.80 ばれいしょ (露地)  [塊茎] 平成 24 年度	フロアブル (40.0%)  20 倍  10 分間 種芋浸漬	日植防 千葉 試験場	0 1	- 99	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005
		油日 アグロ リサーチ	0 1	- 97	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

こんにゃく

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料 調製 場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					フルトラニル		フルトラニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 13 こんにゃくい も [球 茎] 昭和 57 年度	粉 剤 (1.5%)  2 回処理区 1 回目:種芋重 量の 0.5%粉衣 2 回目:植付時 40kg/10a 土壌混和  3 回処理区 1 回目:種芋 重量の 0.5%粉 衣 2 回目:植付 時 20kg/10a 土壌混和 3 回目:生育期 20kg/10a 土壌散布	茨 城 農 試	0 2 3	- 160 30	(財) 残留農薬研究所		日本農薬㈱	
					<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
					<0.005	<0.005	0.033	0.032
					<0.005	<0.005	0.029	0.028
					(財) 日本食品分析センター		日本農薬㈱	
No. 16, 17 こんにゃくい も [球 茎] 昭和 61 年度	粉 剤 (1.5%)  1 回処理区 植付時 40kg/10a 土壌混和  2 回処理区 1 回目:植付時 20kg/10a 土壌混和 2 回目:生育期 20kg/10a 土壌散布	福 島 植 防	0 1 2	- 165 144	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
					0.008	0.008	0.006	0.006
					<0.005	<0.005	0.011	0.008

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

作物名 (栽培形態)  [分析部位] 年度	剤 型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)	
					公的分析機関	
					フルトラニル	
					最高値	平均値
					日本エコテック㈱	
GLP 試験  資料No.84 こんにゃく (露地)  [球茎] 平成 24 年度	粉剤 (2.0%)  1 回目 : 15kg/10a 土壌混和  2 回目 : 3.75kg/10a 株元散布	日植防 茨城 研究所	0 2	- 30	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005
		日植防 千葉 試験場	0 2	- 30	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

てんさい

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年 度	剤 型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分 析 結 果 (ppm)					
					公的分析機関		社内分析機関			
					フルトラニル		フルトラニル			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
No. 12 てんさい  [根部] 昭和 57 年度	粉 剤 (1.5%) 300g/土壌 300L  及び  水和剤 (50.0%) 1000 倍 200L/10a  1 回目:粉剤 の苗床混和 2-5 回目:水和 剤 の散布	(財) 残留農薬研究所	日本農薬㈱							
				北海道農試	0	-	<0.005	<0.005	0.007	0.006
					5	21	0.082	0.082	0.172	0.120
No. 35 てんさい  [根部] 平成 6 年度	フロアブル剤 (40.0%)  1000 倍  (100L/10a) 散 布	(財) 残留農薬研究所	日本エコテック㈱							
				北海道北見農試	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
					4	14	0.02	0.02	0.05	0.04
					4	21	0.01	0.01	0.01	0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					フルトラニル		フルトラニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 45 てんさい [根部] 平成 8 年度	フロアブル剤 (40.0%)  1 回目 : 200 倍 3L/m <sup>2</sup> 灌 注  及び  2-5 回目 : 1000 倍 100L/10a 散 布	北海道 植防・ 札幌	0	-	(財) 食品等分析調査研究所		日本エコテック㈱	
			5	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	21	0.01	0.01	0.02	0.02
		北海道 植防・ 音更	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	14	0.01	0.01	0.02	0.02
			5	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
					-	日本エコテック㈱		
No. 57 てんさい [根部] 平成 17 年度	フロアブル剤 (40.0%)  250 倍 25L/10a 散布	日 植防・ 十勝	0	-	-	-	<0.01	<0.01
			4	14	-	-	0.02	0.02
	北海道 植防・ 音更	0	-	-	-	<0.01	<0.01	
		4	14	-	-	<0.01	<0.01	
	日 植防・ 十勝	4	14	-	-	0.04	0.04	
		北海道 植防・ 音更	4	14	-	-	<0.01	<0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

キャベツ

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料 調製 場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)						
					公的分析機関		社内分析機関				
					フルトラニル		フルトラニル				
					最高値	平均値	最高値	平均値			
No. 38 キャベツ [薬球] 平成5年度	水和剤 (50.0%)  1000倍  (150~ 200L/10a) 散布	日 植 防 研	0 3 3 4 4	- 7 14 21 28	(財) 残留農薬研究所		日本エコテック㈱				
					<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
					0.03	0.03	0.35	0.32			
					0.03	0.03	0.19	0.18			
					<0.01	<0.01	0.03	0.03			
					<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
					日 植 防 ・ 宮 崎	0 3 3 3 3	- 7 14 21 28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
								2.48	2.48	2.81	2.69
	1.09	1.08	0.36	0.36							
	0.51	0.48	0.60	0.59							
	0.26	0.26	0.19	0.18							
	No. 42 キャベツ [薬球] 平成8年度	フロアブル剤 (40.0%)  2000倍  (300L/10a) 散布	岩 手 園 試 ・ 高 冷 地	0 3 3 3	- 7 14 21	(財) 食品等分析調査研究所		日本エコテック㈱			
						<0.01	<0.01	0.03	0.02		
0.31						0.30	0.43	0.43			
<0.01						<0.01	<0.02	<0.02			
<0.01						<0.01	<0.02	<0.02			
群 馬 園 試 ・ 高 冷 地						0 3 3 3	- 7 14 21	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02
								0.21	0.20	0.47	0.47
								0.01	0.01	0.11	0.11
		<0.01	<0.01	<0.02	<0.02						



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					フルトラニル		フルトラニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 51 キャベツ [葉球] 平成13年度	粉剤 (1.5%) 30kg/10a 土壌混和(1回) 及び フロアブル剤 (40.0%) 2000倍 (200L/10a) 散布(3回)	北海道 植防	0	-	(財)東京顕微鏡院		日本エコテック㈱	
			4	7	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			4	14	0.10	0.10	0.09	0.09
			4	14	<0.02	<0.02	0.05	0.05
			4	21	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
	岩手 植防	0	-	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	
		4	7	0.04	0.04	0.05	0.04	
		4	14	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	
		4 <sup>a</sup>	21	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	

a: 岩手植防21日試料のフロアブル1回目散布量は150L/10aであった。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					フルトラニル		フルトラニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 59 キャベツ [葉球] 平成18年度	粉剤 (2.0%) 22.5kg/10a 土壌混和(2回) 及び フロアブル (40.0%) 2000倍 300L/10a(埼玉) 150L/10a(宮崎) 散布(3回)	埼玉 植防	0	-	(財)東京顕微鏡院		日本エコテック㈱	
			5	1	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			5	3	0.07	0.07	<0.05	<0.05
			5	7	0.07	0.06	0.13	0.12
			5	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
	日植 防研宮崎	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
		5	1	0.23	0.23	0.29	0.28	
		5	3	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
		5	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
		5	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

レタス

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					フルトラニル		フルトラニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 23 レタス [茎葉] 平成1年度	粉剤 DL (1.5%)  4kg/10a  散布	長野野菜花卉試	0 3 3 3	- 7 14 28	(財) 日本食品分析センター		㈱化学分析コンサルタント	
					<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
					0.577	0.577	0.384	0.378
					0.040	0.039	0.233	0.230
					<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		日植防・高知	0 3 3 3	- 7 14 28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
					0.885	0.856	1.41	1.40
					0.726	0.698	0.224	0.222
					0.338	0.323	0.212	0.208
					(財) 残留農薬研究所		日本エコテック㈱	
No. 26 レタス [茎葉] 平成4年度	水和剤 (50%)  1000倍 (150L/10a) 散布	岩手園試高冷地開発センター	0 3 3 3 3	- 7 14 21 28	0.009	0.009	0.013	0.012
					3.37	3.36	2.975	2.662
					0.735	0.734	0.670	0.651
					0.147	0.142	0.142	0.138
					0.103	0.100	0.040	0.038
		長野植防・松代	0 3 3 3 3	- 7 14 21 28	0.015	0.014	0.006	0.006
					1.38	1.38	1.212	1.040
					0.158	0.158	0.134	0.133
					0.025	0.025	0.026	0.025
					0.010	0.010	0.010	0.010

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年 度	剤 型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試 料 調 製 場 所	使 用 回 数	経 過 日 数	分 析 結 果 (ppm)							
					公的分析機関		社内分析機関					
					フルトラニル		フルトラニル					
					最高値	平均値	最高値	平均値				
No. 36 レタス (施設)  [茎葉] 平成6年度	フロアブル剤 (40.0%)  1000倍  (150L <sup>a</sup> , 200L <sup>b</sup> /10a) 散 布	長野 営 農 技 セ ン タ ー			(財) 残留農薬研究所		日本エコテック㈱					
					0	-	0.05	0.04	0.06	0.06		
					3 <sup>a</sup>	7	1.39	1.38	1.61	1.60		
					3 <sup>b</sup>	14	0.33	0.32	0.36	0.36		
					3 <sup>b</sup>	21	0.84	0.82	1.08	1.03		
		日 植 防 ・ 高 知					<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
							3 <sup>a</sup>	7	0.11	0.10	0.13	0.13
							3 <sup>a</sup>	14	0.02	0.02	0.03	0.03
							3 <sup>a</sup>	21	0.01	0.01	0.02	0.02

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料 調製 場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					フルトラニル		フルトラニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 47-1, 47-2 レタス [茎 葉] 平成 12 年度	粉 剤 (1.5%)  30kg/10a 作条混和 (1回)  及び フロアブル剤 (40.0%)  1000 倍 (300L/10a) 散 布 (3回)	長野 植 防 ・ 南 信	0 4 4 4	- 7 14 21	(財) 日本食品分析センター		日本エコテック㈱	
					<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
					0.68	0.67	0.67	0.66
					0.04	0.04	0.02	0.02
					<0.02	<0.02	<0.02	<0.02

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

サラダ菜

作物名 (栽培形態)  [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					フルトラニル		フルトラニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 69 サラダ菜 (施設)  [茎葉] 平成 19 年度	1 回目 粉剤 (1.5%) 30kg/10a 土壌混和	長野農業試験場	0	-	-		日本エコテック㈱	
			4	14	-	-	<0.01	<0.01
			4	21			0.43	0.42
			4	28			0.05	0.05
	4	28	0.02	0.02				
	2, 3, 4 回目 フロアブル (40.0%) 2000 倍 200L/10a 散布	愛知農業総合試験場	0	-	-		<0.01	<0.01
			4	14	-	-	0.17	0.16
			4	21			0.12	0.12
4			28	0.06			0.06	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

リーフレタス

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					フルトラニル		フルトラニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 68 リーフレタス (福井：施設) (高知：露地) [茎葉] 平成 16 年度	1 回目・ 粉剤 (2.0%) 30kg/10a 土壌混和	福井 植防	0	-	-		日本エコテック㈱	
			4	7	-	-	<0.02	<0.02
			4	14			4.09	4.06
			4	28			1.05	1.03
	4	28	0.43	0.40				
	2, 3, 4 回目 フロアブル (40.0%) 1000 倍 200L/10a (福井) 65~150L/10a (高知) 散布	日植 防高知	0	-	-	-	<0.02	<0.02
			4	7			2.74	2.70
			4	14			0.62	0.61
4			28	0.22			0.22	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

ふき

作物名 (栽培形態)  [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)					
					公的分析機関		公的分析機関			
					フルトラニル		フルトラニル			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
No. 11 ふき (施設)  [薬柄]  昭和 60 年度	水和剤 (50%)  1000 倍  (3L/m <sup>2</sup> ) 灌注	(財) 残留農薬研究所	(財) 日本食品分析センター							
				愛知総農試・園芸研	0	-	0.005	0.005	<0.01	<0.01
					2	30	0.747	0.712	0.53	0.52
		2	61		0.533	0.514	0.18	0.18		
		大阪府農技センター	0	-	0.034	0.033	0.02	0.02		
			2	30	0.239	0.230	0.37	0.36		
2	61		0.200	0.191	0.19	0.18				

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

ねぎ

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)					
					公的分析機関		社内分析機関			
					フルトラニル		フルトラニル			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
No. 29 ねぎ [茎葉] 平成5年度	粉剤 (1.5%)  20kg/10a  株元散布	埼玉園試	0	-	(財) 残留農薬研究所		日本エコテック㈱			
			3	33	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
		鳥取植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			3	31	0.37	0.36	0.32	0.30		
							(財) 東京顕微鏡院		日本エコテック㈱	
		No. 40 ねぎ (根深ねぎ) [茎葉] 平成9年度	フロアブル剤 (40.0%)  1000倍 (150L/10a) 株元散布	日植防研	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
3	14				0.56	0.54	0.56	0.55		
3	21				0.46	0.46	0.49	0.47		
3	28				0.22	0.21	0.23	0.23		
フロアブル剤 (40.0%)  1000倍 (300L/10a) 株元散布	埼玉植防		0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			3	14	1.57	1.56	1.86	1.84		
			3	21	0.74	0.74	1.00	0.98		
			3	28	0.51	0.50	0.39	0.38		
					-		日本エコテック㈱			
No. 41 ねぎ (葉ねぎ) [茎葉] 平成9年度	フロアブル剤 (40.0%)  1000倍 (300L/10a) 散布	兵庫植防	0	-			<0.01	<0.01		
			3	15	-	-	2.62	2.61		
			3	21			0.73	0.72		
			3	28			0.23	0.22		
	フロアブル剤 (40.0%)  1000倍 (200L/10a) 散布	日植防・高知	0	-			<0.01	<0.01		
			3	14	-	-	0.72	0.70		
			3	21			0.35	0.34		
			3	28			0.06	0.06		



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					フルトラニル		フルトラニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財) 日本食品分析センター		日本エコテック(株)	
No. 71 ねぎ (根深ねぎ) [茎葉] 平成 19 年度	粒剤 (7.0%)  6kg/10a  株元散布	日植防研	0 3 3 3 3	- 7 14 21 28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
					0.01	0.01	0.01	0.01
					<0.01	<0.01	0.01	0.01
					<0.01	<0.01	0.01	0.01
					<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
					(財) 残留農薬研究所	(株) 化学分析コンサルタント		
No. 72 ねぎ (葉ねぎ) [茎葉] 平成 20 年度	粒剤 (7.0%)  6kg/10a  株元散布	日植防高知	0 3 3 3 3	- 14 21 28 42	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
					0.32	0.32	0.31	0.30
					0.35	0.34	0.30	0.30
					0.22	0.21	0.24	0.24
					0.20	0.20	0.14	0.14

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

にら（花茎）（拡大申請中）

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					フルトラニル		フルトラニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 78 にら（花茎） [花茎] 平成 22 年度	フロアブル剤 (40.0%)  2000 倍	高知農技セ	0 2 2 2	- 1 3 7	高知県農業技術センター		—	
					<0.01	<0.01	—	—
					2.07	2.07		
					1.72	1.70		
	0.75	0.74						
	200L/10a 株元散布	高知農技セ	0 2 2 2	- 1 3 7	<0.01	<0.01	—	—
					1.86	1.84		
					1.19	1.18		
0.95					0.95			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

みつば

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料 調製場 所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)					
					公的分析機関		社内分析機関			
					フルトラニル		フルトラニル			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
No. 20a みつば [茎葉] 昭和 62 年度	水和剤 (50%)  2000 倍  (60L/10a) 散布	愛知農 総試	0	-	愛知県農業総合試験場		-			
					3	14	<0.02	<0.02	-	-
					2	21	2.46	2.37		
					2	21	1.75	1.74		
					1	28	0.13	0.12		
No. 20b みつば [茎葉] 平成 1 年度 (夏)	水和剤 (50%)  2000 倍  (60L/10a) 散布	愛知農 総試	0	-	<0.05	<0.05	-	-		
			1	14	16.8	16.2				
			1	21	7.88	7.88				
			1	28	0.77	0.76				
			2	21	8.44	8.28				
			2	28	2.04	1.98				
No. 20c みつば [茎葉] 平成 1 年度 (秋)	水和剤 (50%)  2000 倍  (60L/10a) 散布	愛知農 総試	0	-	<0.05	<0.05	-	-		
			1	14	6.65	6.48				
			1	21	1.85	1.76				
			1	28	0.47	0.46				
			2	21	2.73	2.72				
			2	28	0.62	0.62				

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

トマト

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)				
					公的分析機関		公的分析機関		
					フルトラニル		フルトラニル		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
No. 5 トマト (施設) [果実] 昭和 56 年度	水和剤 (25%)  1 回目:種子重量の2%湿粉衣 2 回目:250 倍液 3L/m <sup>2</sup> 灌注	滋賀県立短大	0	-	(財) 日本食品分析センター		(財) 残留農薬研究所		
			2	112	<0.01	<0.01	<0.004	<0.004	
		長野中信農試	0	-	<0.01	<0.01	-	-	
			2	103	<0.01	<0.01	-	-	
	水和剤 (25%)  1 回目:種子重量の1%湿粉衣 2 回目:500 倍液 3L/m <sup>2</sup> 灌注	滋賀県立短大	2	112	<0.01	<0.01	<0.004	<0.004	
			長野中信農試	2	103	<0.01	<0.01	-	-
						公的分析機関		社内分析機関	
						(財) 残留農薬研究所		日本農薬㈱	
No. 8 トマト (施設) [果実] 昭和 58 年度	水和剤 (25%)  1 回目:種子重量の2%湿粉衣 2 回目:250 倍液 3L/m <sup>2</sup> 灌注	鯉淵学園	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			2	111	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
	水和剤 (25%)  1 回目:種子重量の1%湿粉衣 2 回目:500 倍液 3L/m <sup>2</sup> 灌注	鯉淵学園	2	111	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					フルトラニル		フルトラニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)東京顕微鏡院		日本エコテック㈱	
No. 61 トマト (施設) [果実] 平成 16 年度	フロアブル (40.0%)  1000 倍	日植 防 研	0	-	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			4	1	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			4	7	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			4	28	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
	3L/m <sup>2</sup> 土壌灌注	日植 防 研 宮 崎	0	-	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			4	1	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			4	7	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			4	28	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
No. 62 ミニトマト (施設) [果実] 平成 17 年度	水和剤  1 回目： 種子重量の 1% 種子粉衣	徳島 植 防	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			5	7	0.15	0.14	0.40	0.39
			5	14	0.13	0.12	0.19	0.18
			5	28	<0.05	<0.05	0.12	0.12
	フロアブル  2, 3, 4, 5 回目： 1000 倍 3L/10a 土壌灌注	日植 防 研 高 知	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			5	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			5	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			5	28	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

ピーマン

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					フルトラニル		フルトラニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 31 ピーマン (施設) [果実] 平成5年度	水和剤 (50.0%)  種子重量の 0.5%種子粉衣 及び 1000倍 (3L/m <sup>2</sup> ) 灌注2回	千葉農試・北総	0 3 3	- 1 77	(財) 残留農薬研究所		日本エコテック㈱	
					<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
					0.15	0.15	0.22	0.21
		<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
		日植防研・宮崎	0 3 3	- 1 70	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
					0.01	0.01	0.01	0.01
<0.01	<0.01				<0.01	<0.01		
					公的分析機関	公的分析機関		
					(財) 東京顕微鏡院	兵庫県中央農業技術センター		
No. 48 ピーマン (露地) [果実] 平成13年度	水和剤 (25.0%)  1回目: 種子重量の1% 種子粉衣  2回目: 500倍 (3L/m <sup>2</sup> ) 土壌灌注  及び フロアブル剤 (40.0%)  3, 4, 5回目: 800倍  1L/株 株元灌注	兵庫県中央農技センター	0 5 5 5	- 1 7 14	<0.02	<0.02	<0.1	<0.1
					0.04	0.04	<0.1	<0.1
					0.03	0.03	<0.1	<0.1
					0.03	0.03	<0.1	<0.1
		広島県農業技術センター	0 5 5 5	- 1 7 14	<0.02	<0.02	<0.1	<0.1
					0.03	0.03	<0.1	<0.1
					0.04	0.04	<0.1	<0.1
					0.04	0.04	<0.1	<0.1
					0.02	0.02	<0.1	<0.1

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

ししとう (拡大申請中)

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					フルトラニル		フルトラニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 79 ししとう [果実] 平成 22 年度	フロアブル剤 (40.0%)  1000 倍  1L/株 株元灌注				高知県農業技術センター		—	
		高知農技セ	0	—	<0.01	<0.01	—	—
			3	1	<0.01	<0.01		
			3	3	<0.01	<0.01		
			3	7	<0.01	<0.01		
			3	14	<0.01	<0.01		
		高知農技セ	0	—	<0.01	<0.01	—	—
			3	1	0.01	0.01		
			3	3	0.02	0.02		
			3	7	0.01	0.01		
3	14		0.01	0.01				

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

きゅうり

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		公的分析機関	
					フルトラニル		フルトラニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 6 きゅうり (施設) [果実] 昭和 56 年度	水和剤 (25.0%) 1 回目: 種子重量の 2%湿粉衣 2 回目: 250 倍 3L/m <sup>2</sup> 灌注	日植防研	0	-	(財) 残留農薬研究所		(財) 日本食品分析センター	
			2	63	<0.004	<0.004	<0.01	<0.01
	水和剤 (25.0%) 1 回目: 種子重量の 1%湿粉衣 2 回目: 500 倍 3L/m <sup>2</sup> 灌注	三重農技   センター	0	-	<0.004	<0.004	<0.01	<0.01
			2	80	<0.004	<0.004	<0.01	<0.01
	水和剤 (25.0%) 1 回目: 種子重量の 1%湿粉衣 2 回目: 500 倍 3L/m <sup>2</sup> 灌注	日植防研	2	63	<0.004	<0.004	<0.01	<0.01
			三重農技   センター	2	80	<0.004	<0.004	<0.01

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					フルトラニル		フルトラニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 60 きゅうり (施設) [果実] 平成 16 年度	フロアブル (40.0%) 1000 倍 3L/m <sup>2</sup>	岐阜植防	0	-	(財) 東京顕微鏡院		日本エコテック㈱	
			4	1	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			4	7	<0.02	<0.02	0.09	0.08
			4	29	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
	土壌灌注	日植防研高知	0	-	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			4	1	0.05	0.05	<0.02	<0.02
			4	7	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			4	28	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

ほうれんそう

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					フルトラニル		フルトラニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 10 ほうれん そう (施設) [茎葉] 昭和59年度	水和剤 (50.0%) 1回目: 種子重量の 1%湿粉衣 2回目: 1000倍 (3L/m <sup>2</sup> ) 灌注	日植防研	0 2	- 44	(財) 残留農薬研究所		日本農薬㈱	
					<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
					0.225	0.224	0.625	0.569
					<0.005	<0.005	<0.005	<0.005

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

しょうが

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					フルトラニル		フルトラニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 22 しょうが [塊茎] 平成1年度	水和剤 (50.0%) 2000倍 (400L/10a) 散布	千葉農試	0	-	(財) 食品分析センター		㈱化学分析コンサルタント	
			5	14	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005
			5	21	0.10	0.10	0.069	0.068
			5	37	0.05	0.05	0.029	0.028
	水和剤 (50.0%) 2000倍 (390-480L/10a) 散布	高知農技研	0	-	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005
			5	14	0.10	0.10	0.106	0.106
			5	21	0.10	0.10	0.159	0.154
			5	30	0.09	0.09	0.159	0.156
No. 46 しょうが [塊茎] 平成8年度	フロアブル剤 (40.0%) 2000倍 a: 400L/10a b: 300L/10a 散布	千葉農試・北総	0	-	(財) 日本食品分析センター		日本農薬㈱	
			5 <sup>a</sup>	3	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			5 <sup>a</sup>	7	0.07	0.06	0.06	0.06
			5 <sup>a</sup>	14	0.09	0.09	0.06	0.06
			5 <sup>a</sup>	14	0.13	0.12	0.09	0.09
	日植防・高知	0	-	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	
		5 <sup>b</sup>	3	0.25	0.24	0.18	0.18	
		5 <sup>b</sup>	7	0.31	0.31	0.15	0.14	
		5 <sup>b</sup>	14	0.21	0.21	0.11	0.11	
		5 <sup>b</sup>	14	0.21	0.21	0.11	0.11	
No. 49 しょうが [塊茎] 平成13年度	フロアブル剤 (40.0%) 2000倍 (200L/10a) 散布	日植防研	0	-	(財) 東京顕微鏡院		日本エコテック㈱	
			5	3	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			5	14	0.09	0.09	0.11	0.10
			5	21	0.10	0.10	0.06	0.06
			5	21	0.09	0.09	0.08	0.08
			5	28	0.04	0.04	0.08	0.08

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

葉しょうが No. 73-1, 2 拡大申請中

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					フルトラニル		フルトラニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 53 葉しょうが [塊茎及び 上部茎] 平成 16 年度	フロアブル剤 (40.0%)  2000 倍  (200L/10a) 散布	茨城農総セ	0 3 3 3	- 3 7 14	㈱化学分析コンサルタント		-	
					<0.2	<0.2		
					0.4	0.4	-	-
					<0.2	<0.2		
No. 54 葉しょうが [塊茎及び 上部茎] 平成 16 年度	フロアブル剤 (40.0%)  2000 倍  (200L/10a) 散布	静岡農試	0 3 3 3	- 3 7 14	㈱エコプロ・リサーチ		-	
					<0.1	<0.1		
					0.2	0.2	-	-
					0.2	0.1		
No. 73-1 葉しょうが [塊茎及び 上部茎] 平成 21 年度	粒剤 (7.0%)  4kg/10a  土壌表面散布 + フロアブル剤 (40.0%)  2000 倍  (300L/10a) 散布	静岡農試(静岡)	0 4 4 4	- 3 7 14	㈱エコプロ・リサーチ		-	
					<0.1	<0.1		
					0.2	0.2	-	-
					0.2	<0.1		
	静岡農試(磐田)	0 4 4 4	- 3 7 14	<0.1	<0.1			
				0.2	0.2	-	-	
				0.2	0.2			
				0.1	0.1			
No. 73-2 葉しょうが [塊茎及び 上部茎] 平成 21 年度	粒剤 (7.0%)  4kg/10a  土壌表面散布	静岡農試(静岡)	0 4 4 4	- 3 7 14	㈱エコプロ・リサーチ		-	
					<0.1	<0.1		
					0.9	0.9	-	-
					2.0	2.0		
	静岡農試(磐田)	0 4 4 4	- 3 7 14	<0.1	<0.1			
				0.5	0.5			
				0.1	0.1			
				0.1	0.1			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

えだまめ

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					フルトラニル		フルトラニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
NO.33 えだまめ [さや] 平成4年度	水和剤 (50.0%)  1000倍  灌注 (3L/m <sup>2</sup> 、2回) 散布 (200L/10a、1回)	福島植防	0	-	(財) 残留農薬研究所		日本農薬㈱	
			3 <sup>a</sup>	14	0.011	0.010	0.010	0.010
			3 <sup>a</sup>	21	3.37	3.28	2.98	2.87
			3 <sup>a</sup>	28	0.674	0.667	0.76	0.76
			3 <sup>a</sup>	35	1.20	1.20	0.92	0.91
	水和剤 (50.0%)  1000倍  散布 (3L/m <sup>2</sup> 、3回)	石川植防	0	-	0.008	0.008	0.008	0.006
			3 <sup>b</sup>	14	2.46	2.38	6.39	6.26
			3 <sup>b</sup>	21	3.79	3.66	1.13	1.12
			3 <sup>b</sup>	28	0.563	0.554	0.21	0.21
			3 <sup>b</sup>	35	0.071	0.070	0.070	0.068

a: 1回目: は種直後灌注、2回目: 培土(土寄せ)直後灌注、3回目: 株元散布。

b: 如露にて散布、1回目: は種直後、2回目: 培土(土寄せ)時、3回目: 着莢期~子実肥大期。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					フルトラニル		フルトラニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No.44 えだまめ [さや] 平成9年度	フロアブル (40.0%)  1000倍  散布 1回目土壌、 2回目株元: 3L/m <sup>2</sup> 3回目: 200L/10a	群馬植防	0	-	(財) 東京顕微鏡院		日本エコテック㈱	
			3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	28	0.10	0.10	0.11	0.10
			3	28	0.03	0.03	0.03	0.03
			3	42	0.02	0.02	0.03	0.03
	フロアブル (40.0%)  1000倍  散布 1回目土壌、 2回目株元: 3L/m <sup>2</sup> 3回目: 200L/10a	岐阜植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	21	0.08	0.08	0.06	0.06
			3	28	0.11	0.11	0.15	0.14
			3	42	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

みょうが

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)					
					公的分析機関		公的分析機関			
					フルトラニル		フルトラニル			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
No. 55 みょうが [花穂] 平成 14 年度	フロアブル剤 (40.0%)  2000 倍  土壌灌注 (3L/m <sup>2</sup> )	高知農技センター			高知県農業技術センター		(財) 日本食品分析センター			
					0	-	<0.04	<0.04	<0.01	<0.01
					2	3	0.41	0.40	0.50	0.50
					2	7	0.12	0.12	0.09	0.09
					2	14	0.06	0.06	0.05	0.05
No. 56 みょうが [花穂] 平成 15 年度	フロアブル剤 (40.0%)  2000 倍  土壌灌注 (3L/m <sup>2</sup> )	高知農技センター			高知県農業技術センター		-			
					0	-	<0.04	<0.04		
					2	3	0.85	0.85		
					2	7	0.17	0.17	-	-
					2	14	0.07	0.06		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

畑わさび(拡大申請中)

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					フルトラニル		フルトラニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 76 畑わさび [根及び 根茎部] 平成 21 年度	フロアブル剤 (40.0%)  2000 倍  3L/m <sup>2</sup> 土壌灌注	山口農総技セ	0 2 2 2 2	- 30 60 90 120	山口農総技センター		—	
					<0.02	<0.02		
					3.44	3.41		
					2.15	2.14	—	—
					1.88	1.78		
	1.13	1.08						
No. 76 畑わさび [根及び 根茎部] 平成 22 年度	フロアブル剤 (40.0%)  2000 倍  3L/m <sup>2</sup> 土壌灌注	山口農総技セ	0 2 2 2 2	- 30 60 90 116	<0.02	<0.02		
					4.41	4.24		
					4.28	4.26	—	—
					4.01	3.82		
					2.82	2.66		
No. 76 畑わさび [葉] 平成 21 年度	フロアブル剤 (40.0%)  2000 倍  3L/m <sup>2</sup> 土壌灌注	山口農総技セ	0 2 2 2 2	- 30 60 90 120	<0.02	<0.02		
					1.09	1.09		
					0.41	0.40	—	—
					0.30	0.30		
					0.27	0.27		
No. 76 畑わさび [葉] 平成 22 年度	フロアブル剤 (40.0%)  2000 倍  3L/m <sup>2</sup> 土壌灌注	山口農総技セ	0 2 2 2	- 30 60 90	<0.02	<0.02		
					3.39	3.30	—	—
					2.47	2.43		
					0.66	0.62		
No. 76 畑わさび [花及び 花茎部] 平成 21 年度	フロアブル剤 (40.0%)  2000 倍  3L/m <sup>2</sup> 土壌灌注	山口農総技セ	0 2 2 2 2	- 30 60 90 120	<0.02	<0.02		
					0.64	0.62		
					0.20	0.19	—	—
					0.12	0.12		
					0.09	0.09		
No. 76 畑わさび [花及び 花茎部] 平成 22 年度	フロアブル剤 (40.0%)  2000 倍  3L/m <sup>2</sup> 土壌灌注	山口農総技セ	0 2 2 2	- 30 60 90	<0.02	<0.02		
					0.47	0.46	—	—
					0.41	0.40		
					0.21	0.20		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本製薬株式会社にある。

【参考/代謝物の分析】

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

## 2. 乳汁試験

### (1) 試験の概要

乳牛（4～9歳、体重501～671kg）各群2頭に、あらかじめトウモロコシ粉に混合したフルトラニルを、1日1頭あたり0、200及び2000mgとなるよう飼料に添加し、28日間にわたって摂食させた。投与前、投与開始1、3、7、14、21及び28日後、ならびに投与終了1、3、7日後の乳汁を採取した。乳汁をジエチルエーテルで抽出・乾固後、ヘキサン・アセトニトリル液液分配及びフロリジルカラム精製し、ECD/GLCでフルトラニルを測定した。

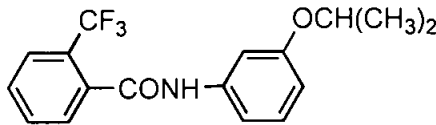
### (2) 分析対象の化合物

化学名： $\alpha, \alpha, \alpha$ -トリフルオロ-3'-イソプロポキシ-*o*-トルアニリド

分子式： $C_{17}H_{16}NO_2F_3$

分子量：323.3

代謝経路図中での記号：(A)

名称	化学名・構造式	分子式 (分子量)	代謝経路図 中での記号
フルトラニル	$\alpha, \alpha, \alpha$ -トリフルオロ-3'-イソプロポキシ- <i>o</i> -トルアニリド 	$C_{17}H_{16}NO_2F_3$ (323.3)	A

### (3) 乳汁試験結果

試験機関		ハンティンドン リサーチ センター (英国) 実施年：1983年、報告年：1984年					
投与量 (mg/頭/日)		0		200		2000	
個体番号		1	2	3	4	5	6
分析結果 (ppm)	投与開始前日	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	投与開始1日後	0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	同 3日後	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	同 7日後	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	同 14日後	<0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.02	0.02
	同 21日後	<0.01	<0.01	0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	同 28日後	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	投与終了1日後	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	同 3日後	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	同 7日後	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

### 3. 土壌残留性試験

#### (1) 分析法の原理と操作概要

試料中のフルトラニルをアセトンで抽出し、シリカゲルカラムクロマトグラフィーによるクリーンアップを行い、FTD GLCまたはN-P FID GLCで定量する。

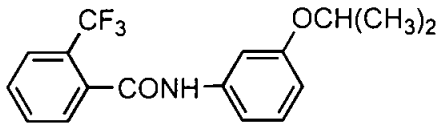
#### (2) 分析対象の化合物

化学名： $\alpha, \alpha, \alpha$ -トリフルオロ-3'-イソプロポキシ-*o*-トルアニリド

分子式： $C_{17}H_{16}NO_2F_3$

分子量：323.3

代謝経路図中での記号： (A)

名称	化学名・構造式	分子式 (分子量)	代謝経路図 中での記号
フルトラニル	$\alpha, \alpha, \alpha$ -トリフルオロ-3'-イソプロポキシ- <i>o</i> -トルアニリド 	$C_{17}H_{16}NO_2F_3$ (323.3)	A

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

(3) 残留試験結果

1) 容器内試験

推定半減期：	水田状態 (1)	1mg/kg	火山灰、壤土	160 日
			沖積、埴壤土	160 日
	水田状態 (2)	10mg/kg	火山灰、壤土	277 日
			洪積、埴壤土	239 日
	畑 状態	10mg/kg	火山灰、壤土	272 日
			洪積、埴壤土	207 日
			沖積、砂土	164 日
			火山灰、壤土	120 日

1-1) 水田状態 (1)

分析機関：日本農薬㈱

資料 No.	試料調製及び 採取場所 [土壌種] 年度	被験物質の 処理方法		経過 日数	測定値 (mg/kg)	
					フルトラニル	
		濃 度	回 数		最高値	平均値
1	栃木県農業試験場 [火山灰、壤土] 水田 昭和 55 年度	純品 1mg/kg	0	—	<0.05	<0.05
			1	0	0.93	0.89
			1	60	0.75	0.70
			1	120	0.68	0.66
			1	180	0.43	0.38
			1	240	0.38	0.38
			1	300	0.42	0.42
			1	360	0.38	0.36
	愛媛県農業試験場 [沖積、埴壤土] 水田 昭和 56 年度	水中添加 28°C	0	—	<0.05	<0.05
			1	0	0.98	0.96
			1	60	0.76	0.75
			1	120	0.62	0.61
			1	180	0.50	0.42
			1	240	0.50	0.46
		1	300	0.40	0.39	
		1	360	0.25	0.24	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

1-1) 水田状態 (2)

分析機関：日本農薬㈱

資料 No.	試料調製及び 採取場所 [土壌種] 年度	被験物質の 処理方法		経過 日数	測定値 (mg/kg)	
		濃 度	回 数		フルトラニル	
					最高値	平均値
5	栃木県農業試験場 [火山灰、壤土] 水田 昭和 55 年度	原体 10mg/kg	0	—	<0.05	<0.05
			1	0	10.1	10.0
			1	60	9.2	8.6
			1	120	9.3	8.5
			1	180	5.9	5.7
			1	240	6.3	6.2
			1	300	6.4	6.2
			1	360	3.9	3.4
	日本農薬㈱研究所 [洪積、埴壤土] 水田 昭和 55 年度	水中添加 28℃	0	—	<0.05	<0.05
			1	0	11.5	10.8
			1	60	7.5	7.0
			1	120	7.8	7.6
			1	180	5.3	5.0
			1	240	4.1	4.0
			1	300	4.7	4.2
			1	360	3.9	3.7
	栃木県農業試験場 [火山灰、壤土] 水田 昭和 55 年度	原体 1mg/kg	0	—	<0.05	<0.05
			1	0	0.92	0.89
			1	60	0.74	0.70
			1	120	0.78	0.66
			1	180	0.42	0.38
			1	240	0.44	0.38
			1	300	0.49	0.42
			1	360	0.42	0.36
日本農薬㈱研究所 [洪積、埴壤土] 水田 昭和 55 年度	水中添加 28℃	0	—	<0.05	<0.05	
		1	0	1.06	1.00	
		1	60	0.71	0.70	
		1	120	0.65	0.60	
		1	180	0.43	0.40	
		1	240	0.49	0.47	
		1	300	0.36	0.36	
		1	360	0.28	0.26	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

1-2) 畑状態

分析機関：日本農薬㈱

資料 No.	試料調製及び 採取場所  [土壌種]  年度	被験物質の 処理方法		経過 日 数	測定値 (mg/kg)	
		濃 度	回 数		フルトラニル	
					最高値	平均値
4	西日本グリーン研究所  [沖積、砂土] 畑地  昭和 56 年度	純品  10mg/kg	0	—	<0.05	<0.05
			1	0	10.0	9.9
			1	60	8.2	8.1
			1	120	7.6	7.5
			1	180	4.4	4.3
			1	240	4.4	4.2
			1	300	4.7	4.4
			1	360	3.0	2.8
	(社)日本植物防疫協会 研究所  [火山灰、壤土] 畑地  昭和 55 年度	土壌混和  28℃	0	—	<0.05	<0.05
			1	0	9.6	9.2
			1	60	7.0	6.9
			1	120	4.7	4.6
			1	180	4.3	4.0
			1	240	4.0	4.0
1	300	3.4	3.2			
1	360	2.1	2.0			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

2) 圃場試験

推定半減期：	水田状態 (1)	火山灰、壤土	30 日
		沖積、埴壤土	20 日
	水田状態 (2)	火山灰、軽埴土	38 日
		洪積、軽埴土	20 日
	畑状態 (1)	火山灰、壤土	14 日
		洪積、砂土	42 日
	畑状態 (2)	火山灰、軽埴土	7 日
		沖積、軽埴土	85 日

2-1) 水田状態 (1)

分析機関：日本農薬㈱

資料 No.	試料調製及び採取場所 [土壌種] 年度	被験物質の 処理方法		経過 日数	測定値 (mg/kg)	
		濃度	回数		フルトラニル	
					最高値	平均値
2	栃木県農業試験場 [火山灰、壤土] 水田 昭和 55 年度	水和剤 (25.0%)	0	—	<0.05	<0.05
			3	0	1.10	0.99
			3	15	1.40	1.2
			3	30	1.30	1.0
			3	60	0.42	0.37
			3	90	0.68	0.54
			3	120	0.65	0.64
			3	180	0.40	0.37
	愛媛県農業試験場 [沖積、埴壤土] 水田 昭和 55 年度	500 倍希釈 150L/10a 散布	0	—	<0.05	<0.05
			3	0	1.30	1.15
			3	15	1.70	1.52
			3	30	1.20	1.04
			3	60	0.34	0.30
			3	90	0.25	0.23
	3	120	0.21	0.18		
	3	180	0.20	0.15		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

2-1) 水田状態 (2)

分析機関： 日本エコテック㈱

資料 No.	試料調製及び採取場所 [土壌種] 年度	被験物質の 処理方法		経過 日 数	測定値 (mg/kg)	
		濃 度	回 数		フルトラニル	
					最高値	平均値
6	日植防研究所 (牛久) [火山灰、軽埴土] 水田 平成 17 年度	粒剤 (7.0%)	0	—	<0.05	<0.05
			3	0	18.6	17.2
			3	15	10.8	10.6
			3	30	10.9	10.8
			3	60	4.95	4.56
			3	90	4.83	4.50
			3	120	3.87	3.66
			3	180	5.62	5.61
	日植防研究所 (高知) [沖積、軽埴土] 水田 平成 17 年度	4 k g/10a 散布	0	—	<0.05	<0.05
			3	0	6.37	5.99
			3	15	4.29	3.62
			3	30	2.12	2.07
			3	59	1.21	1.16
			3	91	0.99	0.88
3	120	1.40	1.29			
3	178	1.47	1.37			
3	240	1.00	0.92			

2-2) 畑状態 (1)

分析機関： 日本農薬㈱

資料 No.	試料調製及び採取場所 [土壌種] 年度	被験物質の 処理方法		経過 日 数	測定値 (mg/kg)	
		濃 度	回 数		フルトラニル	
					最高値	平均値
3	日植防研究所 [火山灰、壤土] 畑地 昭和 55 年度	水和剤 (25.0%)	0	—	<0.05	<0.05
			3	0	29	28
			3	15	34	31
			3	30	16	15
			3	60	9.5	8.5
			3	90	2.6	2.5
			3	120	1.2	1.2
			3	180	0.68	0.60
	西日本グリーン研究所 [沖積、砂土] 畑地 昭和 55 年度	500 倍希釈 2L/m <sup>2</sup> 散布	0	—	<0.05	<0.05
			3	0	21	18
			3	15	15	14
			3	30	11	11
			3	60	7.0	6.2
			3	90	4.8	4.4
3	120	2.2	1.8			
3	180	2.1	1.7			
3	240	0.50	0.40			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

2-2) 畑状態 (2)

分析機関：日本エコテック㈱

資料 No.	試料調製及び採取場所 [土壌種] 年度	被験物質の 処理方法		経過 日数	測定値 (mg/kg)	
		濃 度	回 数		フルトラニル	
					最高値	平均値
7	日植防研究所 [火山灰、軽埴土] 畑地 平成 17 年度	粒剤 (7.0%)	0	—	<0.05	<0.05
			3	0	91.2	90.0
			3	15	21.7	21.3
			3	30	32.7	30.6
			3	60	33.9	33.8
			3	90	23.9	23.6
			3	120	27.7	27.1
			3	180	19.5	18.6
			3	240	12.5	12.2
	日植防研究所 (高知) [沖積、軽埴土] 畑地 平成 17 年度	8k g/10a 散布	0	—	<0.05	<0.05
			3	0	18.3	17.2
			3	15	19.6	17.7
			3	30	9.84	8.28
			3	58	14.3	14.0
			3	90	8.16	8.02
			3	120	5.51	5.48
			3	177	3.96	3.92
3	240	3.98	3.56			



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

4. 後作物残留性試験

試験省略理由：

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

5. 環境中予測濃度算定関係

(1) 水質汚濁性試験

1) 分析法の原理と操作概要

試料に塩化ナトリウムを加え、ジクロロメタンで抽出し、濃縮後ガスクロマトグラフ質量分析計で測定する。

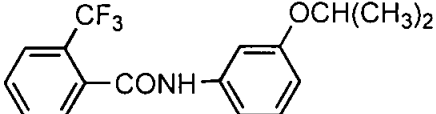
2) 分析対象化合物

化学名： $\alpha, \alpha, \alpha$ -トリフルオロ-3'-イソプロポキシ-*o*-トルアニリド

分子式： $C_{17}H_{16}NO_2F_3$

分子量：323.3

代謝経路図中の記号 (A)

名称	化学名・構造式	分子式 (分子量)	代謝経路図 中での記号
フルトラニル	$\alpha, \alpha, \alpha$ -トリフルオロ-3'-イソプロポキシ- <i>o</i> -トルアニリド 	$C_{17}H_{16}NO_2F_3$ (323.3)	A

3) 試験結果

① 田面水

分析機関：日本エコテック (株)

資料 No.	試料調製及び採取場所 [土壌種] 年度	被験物質の 処理方法 濃度・量	使用 回数	経過 日数	測定値 (mg/L)	
					フルトラニル	
					最高値	平均値
1	千葉県農業試験場 [グライ土、壤土] 平成3年度	粒剤 (イゾプロチオラン 12.0% +フルトラニル 7.0%) 4kg/10a 散布	0	—	<0.0005	<0.0005
			1	0	1.60	1.55
			1	1	0.80	0.78
			1	3	1.30	1.25
			1	7	1.20	1.20
			1	14	0.230	0.222
	千葉県農業試験場 [多湿黒ボク土、埴壤土] 平成3年度	粒剤 (イゾプロチオラン 12.0% +フルトラニル 7.0%) 4kg/10a 散布	0	—	<0.0005	<0.0005
			1	0	1.55	1.52
			1	1	0.60	0.55
			1	3	0.95	0.92
		1	7	0.825	0.812	
		1	14	0.098	0.096	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

② 浸透水

分析機関： 日本エコテック (株)

資料 No.	試料調製及び採取場所 [土壌種] 年度	被験物質の 処理方法 濃度・量	使用 回数	経過 日数	測定値 (mg/L)	
					フルトラニル	
					最高値	平均値
1	千葉県農業試験場 [グライ土、壤土] 平成3年度	粒 剤 (イソプロチオラン 12.0% +フルトラニル 7.0%) 4kg/10a 散布	0	—	<0.0005	<0.0005
			1	0	0.0007	0.0007
			1	1	0.0006	0.0006
			1	2	0.0005	0.0005
			1	3	0.0005	0.0005
			1	7	0.0010	0.0010
			1	14	0.0056	0.0054
			1	21	0.0064	0.0062
			1	35	0.0156	0.0153
			1	49	0.0064	0.0062
	1	64	0.0154	0.0151		
	千葉県農業試験場 [多湿黒ボク土、埴壤土] 平成3年度	粒 剤 (イソプロチオラン 12.0% +フルトラニル 7.0%) 4kg/10a 散布	0	—	<0.0005	<0.0005
			1	0	0.0007	0.0006
			1	1	0.0006	0.0006
			1	2	<0.0005	<0.0005
			1	3	0.0006	0.0006
			1	7	0.0066	0.0063
1			14	0.0042	0.0040	
1			21	0.0082	0.0081	
1	35	0.0450	0.0440			
1	49	0.0090	0.0085			
1	64	0.0049	0.0048			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

(2) 実水田を用いた水田水中農薬濃度測定試験

1) 分析法の原理と操作概要

試料中のフルトラニルを *n*-ヘキサンで抽出する。抽出液を濃縮後、高速液体クロマトグラフィーを用いて定量する。

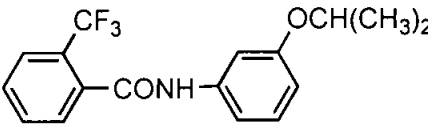
2) 分析対象化合物

化学名：  $\alpha, \alpha, \alpha$ -trifluoro-3'-isopropoxy-*o*-toluanilide

分子式：  $C_{17}H_{16}NO_2F_3$

分子量： 323.3

代謝経路図中の記号 (A)

名称	化学名・構造式	分子式 (分子量)	代謝経路図 中での記号
フルトラニル	$\alpha, \alpha, \alpha$ -トリフルオロ-3'-イソプロポキシ- <i>o</i> -トルアニリド 	$C_{17}H_{16}NO_2F_3$ (323.3)	A

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

3) 試験結果

分析機関：日本エコテック（株）

資料 No.	試料調製及び採取場所 [土壌種] 年度	被験物質の 処理方法 濃度・量	使用 回数	経過 日数	測定値 (mg/L)	
					フルトラニル	
					最高値	平均値
2	岐阜県・現地農家圃場 (本巣郡巣南町) [細粒グライ土、粘質壤 土] 平成6年度	粒剤(パック剤) (21.0%) 50 g x20 個/10a	0	—	<0.01	<0.01
			1	0 <sup>a</sup>	0.01	0.01
			1	0 <sup>a</sup>	<0.01	<0.01
			1	0 <sup>a</sup>	1.57	1.56
			1	0 <sup>a</sup>	0.05	0.05
			1	0 <sup>a</sup>	0.03	0.03
			1	0 <sup>a</sup>	0.09	0.09
			1	0 <sup>a</sup>	0.01	0.01
			1	1	0.75	0.74
			1	1	0.05	0.05
			1	1	0.98	0.98
			1	1	1.44	1.44
			1	1	0.92	0.92
			1	1	0.90	0.90
		1	1	0.26	0.26	
		1	4	0.20	0.20	
		1	4	0.64	0.64	
		1	4	0.64	0.64	
		1	4	0.78	0.78	
		1	4	0.18	0.18	
		1	4	0.50	0.50	
		1	4	0.60	0.60	
		1	7	0.14	0.14	
		1	7	0.27	0.27	
		1	7	0.35	0.35	
		1	7	0.48	0.48	
		1	7	0.11	0.11	
		1	7	0.26	0.26	
1	7	0.30	0.30			

a：処理3時間後

(次頁へ)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬㈱にある。

実水田を用いた水中濃度測定試験（続き）

資料 No.	試料調製及び採取場所 [土壌種] 年度	被験物質の 処理方法 濃度・量	使用 回数	経過 日数	測定値 (mg/L)			
					フルトラニル			
					最高値	平均値		
2	愛知県農総試・場内圃場 (愛知郡長久手町)  [細粒灰色台地土、 軽埴土]  平成6年度	粒剤(バック剤) (21.0%)  50 g x20 個/10a  散布	0	—	<0.01	<0.01		
			1	0 <sup>a</sup>	0.01	0.01		
			1	0 <sup>a</sup>	<0.01	<0.01		
			1	0 <sup>a</sup>	<0.01	<0.01		
			1	0 <sup>a</sup>	0.51	0.51		
			1	0 <sup>a</sup>	0.44	0.44		
			1	0 <sup>a</sup>	0.06	0.06		
			1	0 <sup>a</sup>	<0.01	<0.01		
			1	0 <sup>a</sup>	0.06	0.06		
			1	1	1.17	1.17		
			1	1	0.69	0.69		
			1	1	1.43	1.42		
			1	1	2.39	2.38		
			1	1	1.94	1.94		
		1	1	1.06	1.06			
		1	1	0.99	0.99			
		1	1	1.50	1.48			
		1	7	0.68	0.68			
		1	7	0.75	0.75			
		1	7	0.87	0.87			
		1	7	0.73	0.73			
		1	7	0.68	0.68			
		1	7	0.62	0.62			
		1	7	0.62	0.62			
		1	7	0.78	0.78			
			兵庫県・現地農家圃場 (姫路市勝原区)  [土壌特性：—]  平成6年度	粒剤(バック剤) (21.0%)  50 g x20 個/10a  散布	0	—	<0.01	<0.01
		1			0 <sup>a</sup>	0.35	0.35	
		1			0 <sup>a</sup>	0.12	0.12	
	1	0 <sup>a</sup>			0.07	0.07		
	1	0 <sup>a</sup>			0.19	0.19		
	1	0 <sup>a</sup>			1.11	1.10		
	1	1			1.21	1.20		
1	1	1.25			1.25			
1	1	0.73			0.73			
1	1	1.42			1.42			
1	1	1.78			1.78			
1	4	1.02			1.02			
1	4	1.06			1.06			
1	4	0.25			0.25			
1	4	1.01	1.00					
1	4	1.07	1.07					
1	7	0.49	0.48					
1	7	0.47	0.47					
1	7	0.16	0.16					
1	7	0.14	0.14					
1	7	0.05	0.05					

a: 処理3時間後